

車 両

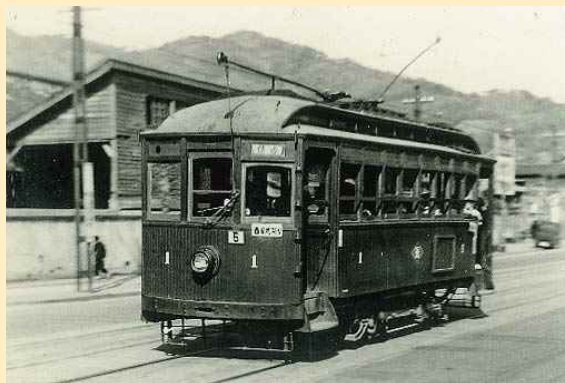


車両変遷

形式別概要

電動客車

1. 1形 (1～10号)



1号

大正4年9月11日付で阪神電鉄（現阪急）から、電動機・制御器・台車関係8両分を17,060円99銭で、又、丹羽電気用品製作所より2両分を4,500円で購入し、車体は神戸高尾造船鉄工所に発注、1両当り1,150円で10両完成の上、開業の日に8両、更に12月に2両の運行を始めた。

小豆色に唐草模様を金箔で描いた颯爽たるいでたちで、長崎電気軌道の走り初めをした由緒ある車両であったが、大正10年5月23日の茂里町車庫火災で6両を焼失、昭和19年10月10日の大橋車庫火災と昭和20年8月9日の原爆で各1両を焼失し、戦後僅かに2両が活躍したが寄る年波には勝てず、1号は昭和28年12月限りで現役を退き、同29年10月三代目運搬車101号に改造され4号は同28年1月最後の車体新造車として活躍していた。

本車両の形態は純然たる関西タイプで、運転台と客室との床面がフラットになっていたのが特徴であったが、4号だけは昭和初期に運転台を一段下げる改造を施し乗降が楽であった。

2. 11形 (11・12号)

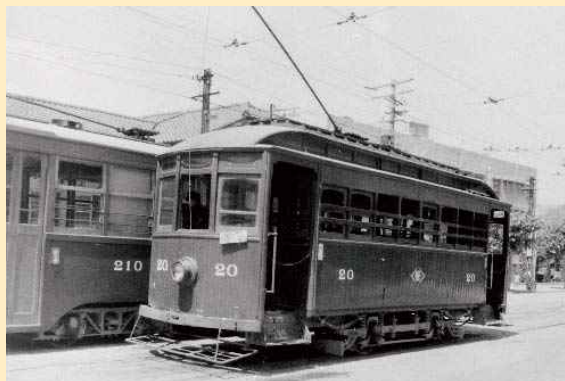
大正5年9月28日付で丹羽電気用品製作所より2両分の中古車を購入、車体を当社工務課で初めて製作組立てたもので、11号車が1916年12月23日完成、大浦線の開通に間に合わせている。車体は1形を模倣したと推定され、職人は阪神地方から3人を呼び製作にあたらせたと記録があり、これを機に車両製作部誕生となった。僅か4年余を経た大正10年5月の茂里町車庫火災で焼失したため、本車両についての詳細な寸法等は不明である。

3. 13形 (13～19号)

大正6年3月～12月にかけて当社車両製作部で完成した7両で、台車及び電気機器は富士水電（現伊豆箱根鉄道）より舶来品の新品7両分を購入し、狭軌用台車のため改造工事を施したが、その費用を含めて1両分5,000円以内で購入、当時新規に注文すると6,900～7,000円程度の価格であったから、割安で購入できた。

車体は車両製作部で製作したものであったが、大正10年5月の茂里町車庫火災で7両揃って焼失、僅かに3～4年の短命であった関係から、形態寸法など一切が不明であるが、1形に準じたものであったと考えられる。何はともあれ、10番台の車両は火災で全滅してしまい、不明な点ばかりである。

4. 20形 (20～39号)



20号

第3期線用として増備した20両で、台車と電気機器は大正6年12月30日付で三井物産と契約し、米国GE社製品を1両分8,265円で輸入の上、車体は当社車両製作部で完成した。

形態的には1形に準じているが、全長を僅かに短縮したため寸詰まりの感は免れない。

大正10年5月の茂里町車庫火災で4両、昭和19年10月の大橋車庫火災で1両、昭和20年8月の原爆で4両を焼失し、残り10両は昭和29年1月に300形ボギー車の代替として廃車した。

5. 借入車 (九州電灯鉄道3・13・15号)

大正10年5月の茂里町車庫火災で在籍39両中19両を焼失した為、九州電灯鉄道から借用したもので、火災後1週間目の5月31日に長崎に搬入、塗装は勿論、社紋番号もそのまま即日使用を始め、翌年11年2月に返却するまで塗り替えなかったので一種奇異な感があったという。

借用料は、3両の8ヶ月分で8,149円60銭と記録があるが、これは当時の新車1両分弱にあたり、高額な借り物であった。

6. 40形 (40～61号)



40号

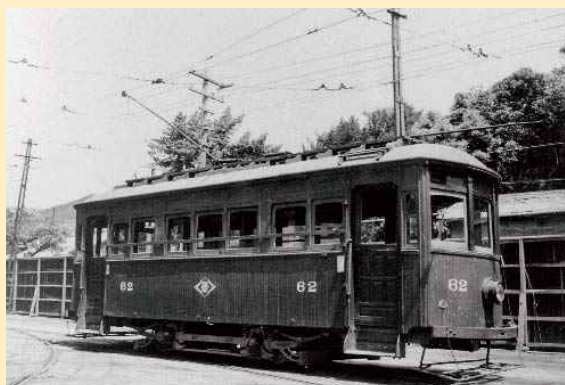
大正10年5月の茂里町車庫火災において在籍車の半数19両を焼失した為、この補充を目的として茂里町車庫で急造した総勢22両の一群である。台車と電気機器類は米国WH社製品を東京の高田商会を通じ、1両分8,024円90銭で購入組立てたもので、車体の製作費は1両4,500円となっている。

特筆すべきは、僅か1年間に22両もの車体を完成させたことで、大正10年12月5両をトップに翌年10月に最後の2両を完成している。

形態的には従来のものから脱却し、大きく近代化され側扉付密閉型車体とし、客室間仕切りが仕切り棒となり、乗務員室も客室と同室の形となったため、雨期冬期は大変楽になった。引戸とステップ間の隙間を塞ぐ方法として、扉の裾に折畳自在蓋を取付け、開閉と同時に連動する仕組みになっていたが、戦災後は撤去してしまった。

昭和20年8月の原爆で8両を焼失したが、20形が廃車された翌年の昭和30年に初めて2両廃車、31年に1両、34年に6両、37年に1両、38年、40年に各2両を廃車し、最後の2両は43年の永きにわたって活躍した。

7. 62形 (62・63号)

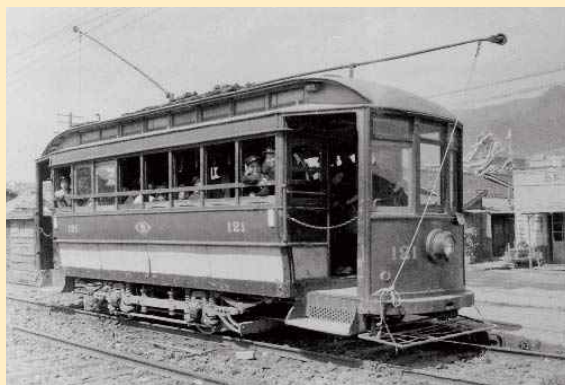


62号

この車両は茂里町車両製作部最後の製作になるもので、大正13年1月の竣功である。台車及び電気機器類は大正12年2月、米国より購入し、前回より安く1両分6,651円20銭となっている。

車体は当時流行の先端であった丸屋根型とし、40形に比べ車体全長が40cm程長い8.903mとした為、特に大型に見えたが洗練されたスタイルであった。収容力もあり戦後まで活躍したが、車体の弛緩甚しく昭和27年に63号が新製車体に取替えられ、62号は54号に変更後昭和30年に廃車になった。

8. 120形 (121～130号)



121号

昭和2年の運賃値上げの理由の一つに車両の増備があり、これを実現の為同年8月10日大阪市電より譲り受けた車両で、明治41～45年梅鉢、日車、天野製の古式豊かなスタイルをもっていた。

車両搬入後、茂里町車庫において段落ち屋根を妻面に向け丸く改造後に使用を始めた。なお、在来車のラストナンバーは63号であったが、一躍3桁の120形と名付けられた理由は判然としない。

昭和19年10月の大橋車庫火災で124号を半焼、昭和20年8月の原爆で125、126号の2両を焼失した。

昭和21年11月には、33両の戦災焼失車を出した鹿児島市電に123、128、129号の3両を譲渡した。当社の車両を同業他社に譲渡したのは後にも先にもこの3両だけで、譲渡価格は362,916円で1両当たり120,987円であった。

原形で残った4両は、昭和24年11月から同年26年1月にかけて127、122、130号の順に新製車体に交換され、121号は昭和28年10月に西鉄福岡市内線より購入した車体と交換し、一新された。その後121号は三代目1号となったが昭和33年に廃車、130号は40号に、127号は45号に変更された。

9. 80形 (81～85号)

昭和13年、出勤時間における輸送力が不足がちとなった為、京都市電より48人乗り単車5両を1両2,650円で譲り受け、輸送力を強化した。

この車両も120形同様段落ち屋根であったが、そのまま使用を開始した。在来車と比べて変わっていた点は、床面がリノリューム貼りで、窓が9枚窓と1枚多くホイールベースも従来の1.981mから153mm長かった。然しながら電動機の故障が多く、昭和16年には全車休車となり、大橋車庫に留置中に昭和19年10月の大橋車庫火災で残らず焼失した。

前回の120形から逆に80形と名付けたのは、電動機がGE-800型であったからと推測される。

10. 130形 (131～134号)



131号

昭和14年阪神急行電鉄より、同社北野線の廃止により廃車された4両を譲り受けたもので、1両2,890

円75銭であった。

昭和2年購入の120形と同系車で、明治45年梅鉢製の元大阪市電に使っていた車両であったことから、120形のラストナンバー130号に追番を付して131～134号と名付けたものである。この車両も搬入後、段落ち屋根を丸く改造して使用した。

昭和20年8月の原爆で132号を焼失、3両残ったが車体の老朽が甚だしく、昭和26年に131、133号を新製車体に交換、134号は昭和28年西鉄福岡市内線より購入した車体に交換した。

11. 火災復旧車（二代目124号）

昭和19年10月の大橋車庫火災で半焼した124号は戦後まで休車になっていたが、昭和24年4月に屋根だけを残しての大修理の結果、2.13mという幅が狭い車体で再登場した。その際、電動機と台車をGE型からWH型に取替え、昭和29年には折戸を新設するなど手を加え、昭和34年6月160形の購入により廃車した。

12. 戦災復旧車

（各二代目45・49・51・53・57・2・24・32・33号、三代目21号）

昭和20年8月の原爆による生存車40両の整備を終えた車両工場で、戦災焼失車の台車と電気機器を更生して車体を新製組立てることとなり、その第1両目が昭和22年9月に竣工し、以後昭和24年5月の天皇御巡幸とザビエル400年祭迄に10両を復旧、最後の3両（24、32、33号）は当時受注量の少なかった三菱長崎造船所で製造され、他車の二重屋根に対して丸屋根を採用した。

形態は大正10年車両製作部製の40形と同設計で、全長を190mm長くしただけであったが、53、57、2、21号の4両は幕板の明り窓を省略、53号は1枚幕板となっていた。

昭和34年6月、160形の代替えとして21、24、32、33、51号の5両を廃車、昭和37年3月に360形の代替えとして2、49号を廃車、昭和40年7月に45号は127号の車体に取替え、昭和42年1月に残る53、57号を廃車した。

13. 車体更新車

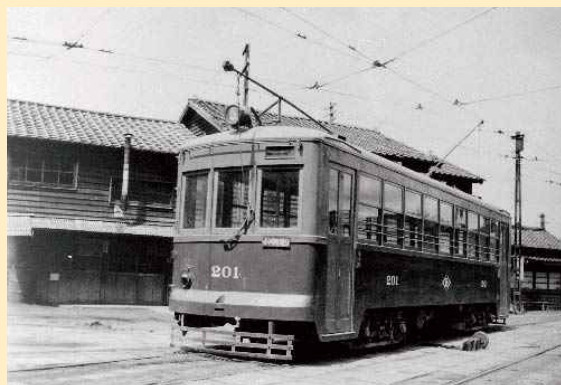
（各二代目127・122・130・133・26・131・4・63号）

戦災復旧車も10両で打ち切り、老朽車の体質改善に乗り出し車体を新造することとなり、戦災復旧車の二重屋根型を改め、丸屋根型として昭和24年11月127号を竣工したが、独特の曲線であった為に設計を変更、次の122号以降は当社車両工場設備で可能な限りの浅い丸屋根として登場した。26号車以降は8枚窓を7枚窓に変更し、二段下部上昇式のスマートな形となった。

127、130、133号は台車と電動機を取替えて三代目45、二代目40、二代目43号となったが、何れも昭和42年1月に廃車になっている。

本車をもって車体自家製工事はピリオドを打ったが、茂里町車庫の車両製作部製と合算すると、68車体を建造したことになる。

14. 201形（201・203・205・207・209号）、202形（202・204・206・208・210号）



201号



208号

昭和24年に熊本、鹿児島両市電がボギー車の運転を始め、各中都市路面電車もボギー車化に乗り出し

ていた。そこで当社としても輸送力強化に主力を置くこととなり、昭和24年に日車、日立に各5両発注した。

車両番号は二軸ボギー車ということから親番号を200番とし、日車製は「ニ」に通ずるから偶数を付し、日立製は「ヒ」に通ずるから奇数としたという。

車体の設計は、西鉄福岡市内線500型を基本としたもので、相違点を挙げれば車体幅を120mm縮小したのと、前照灯を屋根上に装備した二点である。細部の曲線等は製作社の相違が多少みられる。

台車については日車製が西鉄と同一設計のK-10型、日立製は日立SA-W1型となっている。電気機器は両社共三菱電機製とした。

昭和25年2月10日、第1陣として210号がデビューし、2月中に日車製の5両が揃い、3月には日立製も揃って登場した。

その後、昭和30年5月に手用制動機の撤去、昭和44～50年にかけてワンマン化改造、昭和62、63年に冷房改造及び方向幕自動化を施し現在の形態となっている。

平成25年3月に204号、平成26年3月に205号、同年8月に206号を除籍した。なお、204号は平成27年に自社にて貨物電車87号へ改造し、206号はブラジルのサントスへ旅立って行った。

15. 211形 (211～216号)



214号

昭和26年、バス各社の市内線進出が著しく、又、住吉線の開通による沿線人口増加の打開策として、6両を日立に発注した。

昭和26年7月に竣功、211～216号と追番号を付けて登場した。寸法、形態、機能共に201形と同一であるが、電気機器を日立製とし台車の吊リンクの構

造を改めた。

その後、昭和30年5月に手用制動機の撤去、昭和45、46年にかけてワンマン化改造、昭和60年に冷房改造及び方向幕自動化を施し現在の形態となっている。

16. 110形 (111～120号)



112号

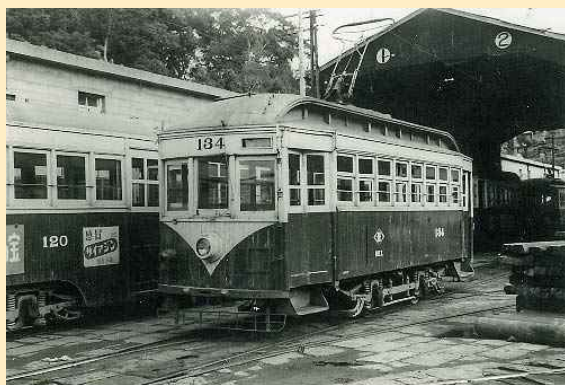
昭和27年1月、西鉄大牟田市内線が廃止され、同線の単車10両を譲り受けることになり、同年3月13日譲渡契約成立、3月24日電動機と台車を搬入、車体は同月31日119号を先頭に搬入された。

定員50人、全長8.78m、幅2.286mと幅はボギー車より16mm広く、電動機は西鉄のボギー車に装備していた35馬力を譲り受け、これに取替えた為強力な車両となった。

特筆されるのは、車体塗色を本車からツートンカラーとしたことで、窓下腰羽目をスカイブルー、窓周りをクリーム色とした。然しながら1ヶ月を経ずして腰羽目をグリーンに改め、これ以来クリームとグリーンが当社の標準塗色の一つとなった。

昭和34年2月の119号を始めとして順次廃車、昭和37年11月の114号を最後に、当社に譲受以来僅か10年にして全車両廃車された。

17. 有明形 (二代目121・62・1・134号)



134号

昭和28年西鉄福岡市内線で廃車された単車4両を購入し、車体新製予定の4両に車体を転用したのがこの車両である。この車両は昭和23～24年にかけて西鉄の直営工事で更新され、側窓二段下部上昇式とし、折戸を新設された改造車であったが、搬入後蛍茶屋車庫において段落ち屋根の妻部分を丸く改造、方向幕位置を前面左に移設後、昭和28年10～12月にかけて使用を開始した。

1号車は車体の弛緩激しく翌29年12月に121号の車体と振替えられ、旧121号は廃車した。昭和33年に至り150形の代替えとして1、62号も廃車、134号は昭和35年に米国博物館へ寄贈された。僅か5年の活躍で終わった短命の車両であった。なお、有明形とは西鉄有明工場に留置されていた関係から、このように称したに過ぎず正式名称ではない。

18. 300形 (301～310号)



310号

昭和28年運賃値上げを機に、サービス面の充実と車両の増備を必要とし、新車10両を日立に発注、同年9月より翌29年1月にかけて竣功した車両である。

前回購入の211形と同寸法、同形態であるが、前照灯を窓下部に設け方向幕を中央位置においたので、西鉄福岡市内線500形と同じスタイルになった。

機能的な面では、台車毎にブレーキシリンダーを設けた事と、手用ブレーキを省略、室内灯をチューブランプ化し、乗務員間信号を押ボタン式ブザーにするなど近代化した。

特に最終番号の310号はモデルカーとしてゴム入弾性車輪を採用、金属類はクロームメッキ、腰掛はサラン張りとし、窓枠は軽合金製となり、運転士腰掛を新設した。車内塗色もライトブルー、外部塗色は上半分ライトグレー、下半分をダークグリーンと神戸市電色に近いものであった。その後、弾性車輪は普通車輪に交換、塗色も360形購入に際し標準色となった。

運転士用腰掛の採用は、当時直接制御器を装備した電車には珍しく、各社からの視察、照会が多く、各地で採用された。

なお、300形10両には車内中央部窓上に荷棚を設けていたが、利用度が少なく昭和38年に撤去され、その後には広告枠が設けられている。

その後、昭和48～53年にかけてワンマン化改造、昭和58～60年にて冷房改造及び方向幕自動化を施し現在の形態となっている。

19. 150形 (151～155号)



151号

昭和31年1月箱根登山鉄道小田原市内線の廃止により、同線で使用していた木造ボギー車5両を譲り受け、改造した車両である。

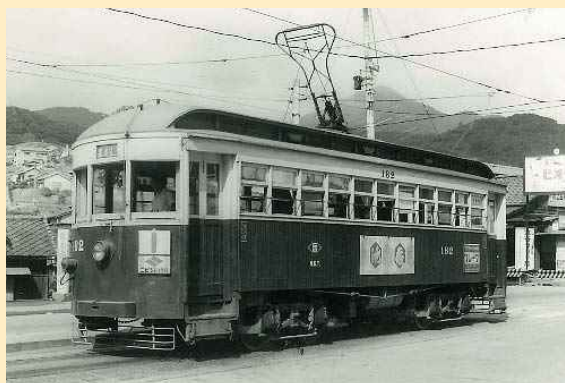
この車両は2種類に分類されるが、151、152号は11.8m、153～155号は13.8mと大型車であった為、三真工業の手で前者は両端を、後者は中央部をそれ

ぞれ切断し、当社の標準寸法11mに短縮、銅板張りに改造の上、昭和32年7月に長崎へ搬入されたものである。

台車は151、152号が低床式で153～155号が高床式であるが、車体は両車とも高床式の為、出入口ステップが2段になっている他に、警笛も本車はホイッスルを取付ける事により、当時は特異な音色をもっていたのが特徴である。

昭和48年に台車を熊本から購入したKS-40Jに交換の上低床化されたが、昭和57年の1200形導入に伴い昭和57年に153号、昭和60年に154、155号、昭和62年の1300形導入に伴い同年に152号がそれぞれ除籍された。

20. 160形 (161～163、166～168号)



162号



168号

昭和34年3月、西鉄福岡市内線より譲り受けた木造高床式車で、明治44年九州電気軌道（現西鉄の母体）が開業に際し、川崎造船所に発注した九州最初の空気ブレーキ付ボギー車である。

台車と電動機は米国製で当初から郊外電車として設計されたため、車輪直径838mmと鉄道車両並みの大型車輪をもった特異な車両である。

戦後、西鉄において運転台に折戸を新設、客室と

運転台の間仕切りを撤去、折り畳み式補助ステップを新設し、福岡市内線で活躍したが連接車の増備によって淘汰されたものである。

尾灯が片側2個付いていたが、昭和39年10月系統板大型化の際に1個が撤去された。また、折戸の構造で2種に分類され、161～163号は内吊り内開き式、166～168号は外吊り外開き式となっている。

昭和45年に161、163号、昭和45年に166号、昭和48年に167号、昭和53年に162号がそれぞれ廃車された。唯一残った168号は、現在車齢103年と日本最古の木造ボギー車である。

21. 170形 (171～177号)



174号

160形と同時に譲り受けた7両で、大正7～10年（177号は大正元年）に九州電気軌道が増備した車両である。当社が譲り受ける迄の経歴は160形と同様で、折戸はいずれも内吊り内開き式で、台車・電動機関係は同型を使用している。車体は全長11.798mと当時の当社最長で、客室側窓2枠毎に吹寄せがあり、吹寄せの車内側には鏡がはめてあったという。

昭和45年に171、172、174、175、177号の5両、昭和51年に173、176号がそれぞれ廃車された。

22. 360形 (361～367号)



365号

昭和36年運賃値上げを機に購入した7両で、当初の全金属製車両となる。車体及び電気機器を日車で、台車をナニワ工機で完成し昭和36年12月9日よりデビューした。



364号

在来のボギー車とは設計を一変、高度に近代化した車両である。改良された主な点は中ドアと集電装置にZパンタを採用、室内灯・方向幕灯共に蛍光灯とし、窓枠にアルミサッシの採用、乗務員間合図に一点打式電磁ベルを設けた点が挙げられ、自重14トンと従来より1トン軽くなった。

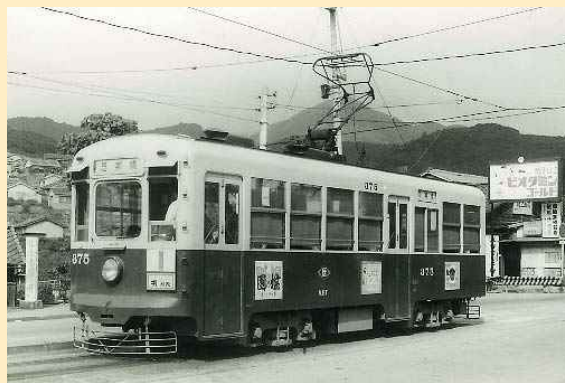
360形と命名したのは、昭和36～38年度にわたって各7両購入を計画したため、各年度の数字を冠した。

昭和37年7月8日6時20分頃、363号が蛍茶屋より暴走、推定時速70kmで新大工町に停車していた365号に追突脱線、歩道に当たって180度転回したあと軌道に戻り、再び先行車に激突するという大事故が発生した。これにより両車共大破し、日車で回送して大修理した。この事故を機に開扉中は常にブレーキをかける仕組みの補助ブレーキが開発され、現在

では貨物電車（87号）とツーマン車（151、168号）を除く全ワンマンカーに装備されている。

その後、昭和44年と52年にワンマン化改造、昭和58～59年にて冷房改造、昭和61年に方向幕自動化を施し現在の形態となっている。

23. 370形 (371～377号)



375号



374号

昭和37年、360形の改良型として増備した7両で、車体、電動機、台車全般を日車で完成し、同年9月より運行した。主な改良点としては、運転台正面窓下部にベンチレーターを新設（後のワンマン化にて廃止）、尾灯を幕板に収め片側2個に改めた。

昭和39年9月、画期的広告媒体として車体全体をスポンサーカラーに塗装し登場したのが370形で、全国初の試みとして関係各方面から注目を集めた。

本車の増備によってボギー車58両、単車13両となった。なお、当初計画されていた380形は諸般の事情により建造を中止するに至った。

その後、昭和43年、50年と52年にワンマン化改造、昭和56年と58年にて冷房改造、平成元年に方向幕自動化を施し現在の形態となっている。

24. 500形 (501～506号)



503号

昭和41年、大阪市交通局より6両分の台車並びに電装部品類を譲り受け、車体はナニワ工機にて新造された。近い将来予想されたワンマン化を見据え、当初から車内ミラー、自動戸閉装置、車内放送設備を備えていた。

その後、昭和43年にワンマン化改造、昭和59年に冷房改造、昭和59、60年に方向幕自動化、昭和61年～平成3年にかけて台車更新を施し現在の形態となっている。

平成26年に501号が廃車された。

25. 600形 (601・602号)



601号

昭和28年、車体は新木南車両製、台車は住友金属製である。

熊本市交通局で発注された車両であるが、どういう理由かこの2両だけが折戸の両端ドアになっており、車両の長さが他の車両の12～12.8mに比べ11mと小さいという異端児であった為、ついに退役となったものを昭和44年に2両譲受、九州車両にてワンマン改造を施された。

昭和62年、1300形導入に伴い602号が廃車された。

26. 700形 (701～706号)



701号

昭和30年、車体はナニワ工機製（701～704号）と東洋工機製（705、706号）とがある。台車は日本車両製と東急車両製とがある。

東京都交通局2000形（杉並線用）として新造（軌間1,067mm）、昭和38年の杉並線廃止後に軌間を1,372mmに変更し、都心に進出したが路線の大幅縮小により退役したものを昭和44年に6両を譲り受け、九州車両で台車を軌間1,435mmに合うように変更改造、車体はワンマン改造を施された。

平成5年に703号、平成7年に704、705号、平成10年に702、706号がそれぞれ廃車された。

27. 800形 (801・802号)



802号

昭和25年、車体は日本車両製（801号）と東京都交通局電車車両工場製（802号）とがある。

昭和47年に東京都交通局より5両を譲受し、しばらく車庫に留置していた2両で、昭和51年に801号、翌52年に802号を改造し、ツーマンカーとして使用

を開始した。

この際、台車は東京都交通局と軌間が異なる為、西日本鉄道北九州線より譲り受けた台車へと変更した。

残りの3両は改造を施さないまま、昭和57年に801、802号と共に5両共廃車された。

28. 1050形 (1051～1055号)



1051号

昭和27年、新潟鉄工所製である。この車両は昭和23年から27年にかけて4回に分けて新造され、仙台市初のボギー車80形として登場したもので、昭和29年に100形と改称、昭和44年にワンマン改造の際に両端ドア式を中ドアに改造し、正面窓も3枚窓から変則2枚窓に改造した。

昭和51年、仙台市交通局軌道線の全廃と同時に車体のみの5両を譲受し、西日本鉄道北九州線の車両から台車のみを譲受し、西鉄産業久留米工場でワンマン仕様に変更改造、同二日市工場で車体と台車の結合に関わる改造を施された。

なお、車号は仙台市電になぞらえてセンダイ(1000番台)とし、昭和51年の運転開始にあたり1050番台としたものである。

平成2年に1054、1055号、平成5年に1052号がそれぞれ廃車された。

平成13年8月に1053号が仙台へ旅立って行った。

29. 2000形 (2001・2002号)



2001号

昭和55年、日本鉄道技術協会を筆頭に各メーカーと広島電鉄、当社が参加して開発された軽快電車として、川崎重工とアルナ工機により製造された。

空気バネや防音車輪の採用により走行音も非常に静かで、ワンハンドルによるチョップ制御、冷房装置や大型自動方向幕といずれも初採用であった。また、両開きドアやクロスシートとロングシートの交互配置等も他社に先駆けたものであった。

この車両は、新しい世代へ繋ぐ路面電車への望みを託す軽快電車をいち早く実用車として導入した英断と、その車両が省エネ、低騒音、低振動、高加減速等の諸性能、及び3段ステップや車内設備等の乗客への配慮と近代的な外観デザイン等が鉄道友の会に評価され、昭和56年にローレル賞を受賞した。

平成22年に2002号、平成26年に2001号がそれぞれ廃車された。

30. 1200形 (1201号)



1201号

昭和55年の2000形導入後、次の軽快電車購入に向け資金準備を進めていたが、今後4～5年は次期軽

快電車の新造は無理だと予測し、車体のみを新造する方針にて、昭和57年にアルナ工機にて製造された。

軽快電車のイメージを残し、製造費の低減と部品を統一する為に主電動機、制御器、制動機、空気圧縮機等の主要機器は在来車同様のものを使用している。また、軽快電車のイメージを残しつつも、中ドアは両開きから片開きへ、座席は全てロングシートといった変更がなされている。更に新車としてのイメージを強調する為、製造当初から冷暖房車としている。

昭和57年7月23日の長崎大水害により、1200形3両に使用する台車の冠水等の事態により、アルナ工機には搬入を見合わせて貰い、冠水した3両分の台車は復旧最優先として西鉄産業二日市工場に送り、同社も全力を挙げて要請に応じて頂いた。その結果、8月10日～13日にかけて車両が搬入され、随時営業運転に入るというスピード対応であった。

大水害後の車両復旧に、このように各方面の支援により1200形が営業運転に入れた事は異例の早さであった。

後に1202～1205号は制御方式等の改造が加えられた為、当初からの形態を残すのは1201号のみとなっている。

31. 1300形 (1301～1305号)



1301号

昭和62年から平成元年の3回に分けアルナ工機により製造され、1200形同様に車体のみの新造車である。

台車は西日本鉄道北九州線300形にて使用されていたKL-11型台車を譲受し、使用している。

車体は1200形と同一設計ながら、運転席両側の固定窓を外側へ開くよう、またパンタグラフは2000形

と同型の新品を使用する等の変更がなされている。

32. 1500形 (1501～1506号)



1502号

平成5～8年の4回に分けアルナ工機により製造され、1200、1300形同様に車体のみの新造車である。

台車は西日本鉄道北九州線600形にて使用されていたFS-51型台車を使用しており、この台車の主電動機出力は従来の38kWではなく、45kWとなり加速能力が向上している。

車体は1300形の設計を変更しており、側窓の数が片側6窓から4窓へ減らし大型化、縦に配列されていた前照灯、尾灯を横に配列、パンタグラフはシングルアーム式へと変更されている。

後に1507号が制御方式等の改造が加えられた。

33. 1700形 (1701・1702号)



1701号

1300形の設計変更車両として平成11年にアルナ工機により製造された車体のみの新造車である。

台車は700形の702、706号にて使用していたD16 NA型台車を再使用している。

車体は1500形同様に側窓は4窓、前尾灯は横に配

列、パンタグラフはシングルアーム式となっている。

この車両には足踏みスイッチによるデッドマン装置(緊急停止装置)が設置され、安全面の向上も図っている。

34. 1800形 (1801～1803号)



1801号

1500形の設計変更車両として平成12年と14年にアルナ工機により製造された車体みの新造車である。

直接抵抗制御が主であった当社にとって、初のワンハンドル式デッドマン装置付の間接自動抵抗制御を採用し、起動・加速時のショック緩和及び運転操作の簡易化を図っている。

台車は1500形同様、西日本鉄道北九州線600形にて使用されていたFS-51型台車を使用している。

車体は1500形と比べると長さが440mm長く、幅が50mm広く当時の車両としては最大の大きさであった。また、2000形から続いていた車体デザインも一新され、1500形の片開き式の中ドアは両開きに、側面の方向幕は経由地入りの大型方向幕に、前尾灯は従来の丸型から角型の灯具にとそれぞれ変更され外観も大きく変更された車両である。

1803号製造時には、ブレーキシシステムの二重化と床下設置の主抵抗器を屋根上に移設する変更が加えられ、後に1801、1802号も同様の改造を施している。

35. 1200A形 (1202～1205号)



1202号

1800形の車両性能が優れており、また1200形が製造後20年を経過した事もあり、自社にてリニューアル工事を施した車両である。

1800形同様に、直接抵抗制御から間接抵抗制御へ変更、ブレーキシシステムの二重化・側面方向幕の大型化を実施している。

台車はそれまでのK-10型台車から、西日本鉄道北九州線600形のFS-51型台車へと変更し、主電動機出力も1800形同様の45kWとなっている。

平成15年に1204、1205号、平成16年に1203号、平成17年に1202号がそれぞれ竣工している。

36. 3000形 (3001～3003号)



3001号

当社初の超低床車両であり、平成15年～18年にかけてアルナ車両にて3両製造された。1200形以降は車体みの新造車であったが、この車両は昭和55年の2000形以来23年振りの完全な新造車となる。

車体は両側先頭車に台車があり中間車をフローティングした3連接構造となっている。車体の幅は1800形と同様であるが、長さは当時最大であった

1800形よりも2.96m も長く、当時として最も長い車両となった。

両側先頭車の床下に主電動機を車体装架し、ユニバーサルジョイントで台車の駆動軸と繋ぐことにより、車軸付の台車でありながら台車上部の客室床高さ480mm、通路幅800mm を実現した画期的な車両である。

制御方式はIGBT-VVVF インバーター制御で、主電動機は交流モーターでその出力は85kW、デッドマン付ワンハンドルマスコンにて力行、制動操作を行い、ブレーキ装置は100V 電源による電気・機械式ブレーキ、ドアは国産初の電気式プラグドア(電源100V)を採用する事によるエアレス化を図っている。

車体デザインは正面に曲面ガラスを採用し、コーナー部に柱を設けない事による柔らかな形状とし、ボディカラーはベージュ調のメタリックを基調に窓及びドア部を黒とし、シンプルで落ち着いたカラーとしている。

車内は初めて全て一人掛けのシートを採用し、そのシート2席分を折り畳む事による車椅子スペースを設けている。

以上のように、当社初の超低床車は初採用尽くしの車両となった。

37. 1500A 形 (1507号)

1200A 形同様、自社にて改造工事を施した車両である。

1201号のリニューアル工事が残っていたが、必要となるFS-51型台車を保有していなかった為に、当初よりFS-51型台車を使用していた1500形の改造を施した。

1200形同様に、直接抵抗制御から間接抵抗制御へ変更、ブレーキシステムの二重化・側面方向幕の大型化を実施している。また、1500A 形ではDH-16型からHS-5型へと電動空気圧縮機の変更も実施している。

平成22年に1507号が竣功している。

38. 5000形 (5001・5002号)



5001号

3000形の発展形として開発された車両で、平成23、24年にアルナ車両にて製造された。

3000形同様に3連接車体としているが、両側先頭車の座席配置等の見直しにより通路幅880mm を確保している。

交流式のHS-5型電動空気圧縮機を搭載し、ブレーキシリンダー付の台車を採用している。また、電気式プラグドアも電源100V から24V へと変更し、これらの変更によって100V 電源を廃止している。

車体デザインは、正面ガラスコーナー部に柱を追加し直線的なデザインとした。また、ボディカラーは白を基調に赤を配色し、5000形で初採用となるLED式制動灯をバランス良く配置する事により、近未来的なデザインとしている。

車内は、両側先頭車は3000形同様一人掛けのシートとしているが、中間車は全てロングシートへと変更している。

その他

1. 散水車 (101号・二代目101号)

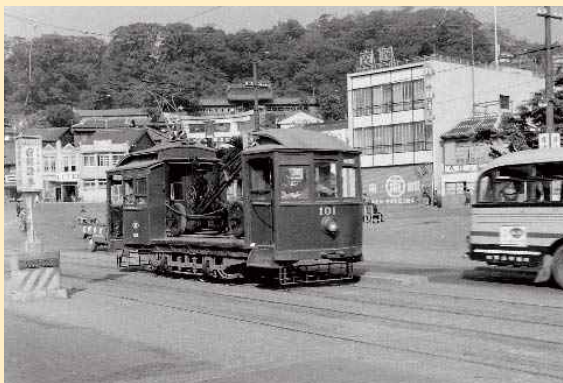
101号は大正5年に製造され、水槽は長崎の久保鉄工場製であるが、竣工図やその他の記録が残っておらず、詳細は不明である。

大正10年5月23日の茂里町車庫火災で焼失した。

二代目101号は、茂里町車庫火災にて焼失した初代101号の台枠、台車を更新して、大正11年に製造された。

この二代目101号も昭和19年10月10日の大橋車庫火災で焼失した。

2. 運搬車 (102・103・三代目101号)



三代目101号

第三期線（築町～馬町、長崎駅前～古町、西浜町～思案橋、病院下～下の川の4線）の工事用運搬車として、大正9年に102、103号が自社にて製造されたが、資料等無く詳細は不明である。

その後、第三期線工事終了後の大正10年、2両共廃車された。

昭和29年、1形1号をクレーン付運搬車へ改造し、三代目101号とした。

窓8枚中6枚分を荷台スペースとし、クレーンを設置した車両である。積載荷重に耐えるよう、車体と台車間のバネを取り外したプリル21E型台車を使用しており、乗り心地はとても酷いものであった。

昭和34年の皇太子御成婚記念時には花電車としても使用されたが、その後使用されなくなり昭和47年に廃車された。

3. 花電車 (87・88・二代目87号)



初代87号



二代目87号

昭和53年、西日本鉄道福岡市内線の21号を譲受した車両であり、花電車にちなんで87号と名付けられた。その後、平成元年に西日本鉄道多々良車庫に留置されていた牽引車（元福岡市内線67号）を譲受し、同じ花電車用ということで続番の88号と名付けられた。

車体は客室部分を撤去し、やぐらを立ててパンタグラフを設置していた。また、手用ブレーキと空気ブレーキの両方を装備していた。

87号の譲受当時は花電車を運行する恒例行事は特になく、昭和60年の開業70周年記念イベントで初めて本格的な電飾を施した花電車として運行された。その後、旧正月に合わせた長崎ランタンフェスティバルにて、ランタンやオブジェを搭載した電飾花電車を運行するようになった。また、毎年4月に開催される長崎花まつりでもオブジェを乗せたり車体を装飾した花電車を運行した時もあった。この他にも各種PRの一環として、実際の乗用車やビルの模型を乗せて運行したこともあり、多岐に利用されていた。しかしながら、長崎ランタンフェスティバル、長崎花まつりともに花電車の需要が無くなった後は使用される事が無く、平成22年に2両とも廃車された。

平成27年、202形204号を自社にて改造し、二代目87号を製造した。

従前の花電車同様にやぐらを立ててパンタグラフを設置しているが、従前との違いは単車からボギー車になった事による走行性能向上、不測の事態に備えデッドマン装置の新設による安全性の向上、車体長さが2m長くなることによる荷台スペースの拡大、運転席は屋根付き等が挙げられ、安全性、車両性能共に向上した。

車両戸籍簿

平成27年4月1日現在

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
1	T 4. 10. 22	神戸市 高尾造船鉄工所	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	T 4. 10. 22	S 28. 12.	運搬車 改造	(38年)	台車、電機は阪神電鉄より購入
2	〃	〃	〃	〃	〃	S 20. 8. 9	戦災	(30)	〃
3	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	火災	(5)	〃
4	〃	〃	〃	〃	〃	S 28. 1. 21	老朽	(37)	〃
5	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	火災	(5)	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
7	〃	〃	〃	〃	〃	S 19. 10. 10	〃	(29)	〃
8	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	〃	(5)	〃
9	T 4. 12. 28	〃	〃	〃	T 4. 12. 28	〃	〃	(〃)	〃
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
11	T 5. 12. 23	自社	不詳	不詳	T 5. 12. 23	T 10. 5. 23	火災	(4)	中古車を購入、車体を新造(初の自社製車体)
12	T 6. 3. 27	〃	〃	〃	T 6. 3. 27	〃	〃	(〃)	〃
13	T 6. 3. 27	自社	不詳	不詳	T 6. 3. 27	T 10. 5. 23	火災	(4)	台車、電機は富士水電(伊豆箱根鉄道) より購入
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
15	T 6. 5. 3	〃	〃	〃	T 6. 5. 3	〃	〃	(〃)	〃
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
18	T 6. 12. 21	〃	〃	〃	T 6. 12. 21	〃	〃	(3)	〃
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
20	T 8. 10. 1	自社	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	T 8. 10. 1	S 29. 1. 14	老朽	(34)	T 13. 5. 12 二代目21号に改番 T 7 福岡市の展覧会に出品
21	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	火災	(1)	
22	〃	〃	〃	〃	〃	S 20. 8. 9	戦災	(25)	
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
25	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	火災	(1)	
23	T 8. 12. 22	〃	〃	〃	T 8. 12. 22	S 29. 1. 14	老朽	(34)	
26	〃	〃	〃	〃	〃	S 26. 7. 19	〃	(31)	
27	〃	〃	〃	〃	〃	S 29. 1. 14	〃	(34)	
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
29	T 9. 5. 28	〃	〃	〃	T 9. 5. 28	T 10. 5. 23	火災	(11ヶ月)	
30	〃	〃	〃	〃	〃	S 29. 1. 14	老朽	(34)	
31	T 9. 5. 28	自社	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	T 9. 5. 28	S 29. 1. 14	老朽	(34)	T 13. 5. 12 二代目25号に改番 〃 二代目36号 〃
32	〃	〃	〃	〃	〃	S 20. 8. 9	戦災	(25)	
33	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
34	T 9. 12. 22	〃	〃	〃	T 9. 12. 22	S 29. 1. 14	老朽	(33)	
35	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
36	〃	〃	〃	〃	〃	T 10. 5. 23	火災	(5ヶ月)	
37	〃	〃	〃	〃	〃	S 29. 1. 14	老朽	(33)	
38	T 10. 5. 3	〃	〃	〃	T 10. 5. 3	S 19. 10. 10	火災	(23)	
39	〃	〃	〃	〃	〃	S 29. 1. 14	老朽	(32)	
二代目3	不詳	国産	米国 ベックハム	米国 G. E. 社	T 10. 5. 31	T 11. 2. 22	返却	(8ヶ月)	九州電灯鉄道(現西鉄福岡市内線)3号を一時借用
〃 13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 (〃)13号 〃
〃 15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 (〃)15号 〃
40	T 10. 12. 3	自社	米国 J. G. プリル社	米国 W. H. 社	T 10. 12. 3	S 31. 8. 20	老朽	(34)	S 31. 8. 20 四代目21号に改番
41	〃	〃	〃	〃	〃	S 40. 7. 1	〃	(42)	
42	〃	〃	〃	〃	〃	S 34. 6. 20	〃	(34)	
43	〃	〃	〃	〃	〃	S 37. 11. 30	〃	(40)	
44	〃	〃	〃	〃	〃	S 34. 6. 20	〃	(37)	
45	T 11. 2. 20	〃	〃	〃	T 11. 2. 20	S 20. 8. 9	戦災	(23)	
46	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
47	〃	〃	〃	〃	〃	S 34. 6. 20	老朽	(37)	
48	〃	〃	〃	〃	〃	S 38. 4. 8	〃	(40)	

- (注) 1. 入籍順とし貨車、散水車は末尾に記載。
2. 在籍期間欄中 () 印は廃車になったもの。

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
49	T11. 2. 20	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	T10. 12. 3	S20. 8. 9	戦災	(23)	
50	T11. 3. 20	〃	〃	〃	T11. 3. 20	〃	〃	(〃)	
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	
52	〃	〃	〃	〃	〃	S37. 11. 30	老朽	(40)	
53	〃	〃	〃	〃	〃	S20. 8. 9	戦災	(23)	
54	〃	〃	〃	〃	〃	S28. 11.	老朽	(31)	
55	T11. 6. 1	〃	〃	〃	T11. 6. 1	S38. 4. 8	〃	(40)	
56	〃	〃	〃	〃	〃	S34. 6. 20	〃	(36)	
57	〃	〃	〃	〃	〃	S20. 8. 9	戦災	(23)	
58	T11. 6. 1	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	T11. 6. 1	S20. 8. 9	戦災	(23)	
59	〃	〃	〃	〃	〃	S34. 6. 20	老朽	(36)	
60	T11. 10. 3	〃	〃	〃	T11. 10. 3	S38. 4. 8	〃	(40)	
61	〃	〃	〃	〃	〃	S40. 7. 1	〃	(41)	
62	T13. 1. 23	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	T13. 1. 23	S30. 1.	老朽	(30)	S28. 7 二代目54号に改番
63	〃	〃	〃	〃	〃	S27. 2. 29	〃	(28)	車両製作部最後の製造
121	M41. 10.	日車	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S3. 1. 25	S28. 10. 23	老朽	(25)	大阪市電67号→
122	M42.	〃	〃	〃	〃	S25. 10	〃	(22)	〃 108号→
123	〃	〃	〃	〃	〃	S21. 12. 26	譲渡	(18)	〃 121号→当社123号→鹿児島市電 二代目34号となる
124	〃	〃	〃	〃	〃	S34. 6. 20	老朽	(31)	〃 129号→S19. 10. 10の火災で半焼、 S22. 4更新復旧
125	〃	〃	〃	〃	〃	S20. 8. 9	戦災	(17)	〃 186号→
126	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 201号→
127	M45. 6.	天野	〃	〃	〃	S24. 11	老朽	(21)	〃 206号→
128	〃	〃	〃	〃	〃	S21. 12. 26	譲渡	(18)	〃 211号→当社128号→鹿児島市電 二代目33号
129	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 227号→ 〃 129号→ 〃 二代目32号
130	M45. 7.	梅鉢	〃	〃	〃	S26. 1	老朽	(23)	〃 266号→
81	T2. 2.	梅鉢	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S13. 8. 20	S19. 10. 10	火災	(6)	京都市電130号→
82	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 136号→
83	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 141号→
84	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 143号→
85	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 145号→
131	M45. 5.	梅鉢	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S14. 10. 7	S26. 1. 1	老朽	(12)	大阪市電160号→阪神急行電鉄(現阪急)北野線151号→
132	〃	〃	〃	〃	〃	S20. 8. 9	戦災	(7)	〃 302号→ 〃 152号→
133	〃	〃	〃	〃	〃	S26. 4. 29	老朽	(11)	〃 305号→ 〃 153号→
134	〃	〃	〃	〃	〃	S28. 12.	〃	(14)	〃 309号→ 〃 154号→
二代目45	S22. 9.	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	S22. 9.	S40. 7. 1	老朽	(16)	戦災復旧車(車両課にて車体製造再開第 1号車)
〃 49	S23. 2.	〃	〃	〃	S23. 2.	S37. 3. 31	〃	(14)	〃
〃 51	S23. 5.	〃	〃	〃	S23. 5.	S34. 6. 20	〃	(11)	〃
〃 53	S23. 9.	〃	〃	〃	S23. 9.	S42. 1. 20	〃	(18)	〃
二代目57	S24. 3.	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	S24. 3	S42. 1. 20	老朽	(17)	戦災復旧車
〃 2	S24. 5.	〃	〃	米国 G.E. 社	S24. 5	S37. 3. 31	〃	(7)	〃
三代目21	〃	〃	〃	〃	〃	S37. 8. 20	〃	(10)	〃
二代目24	〃	三菱 長崎造船所	〃	〃	〃	S34. 6. 20	〃	(〃)	〃
〃 32	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
〃 33	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃
〃 127 →三代目45	S24. 7.	自社	米国 J.G. プリル社	米国 W.H. 社	S24. 7.	S42. 1. 20	老朽	(10)	車体新造車 S40. 7. 1 三代目45号に 改番
202	S25. 1.	日車	日車	三菱	S25. 2.	H25. 3. 31	老朽	65 (63)	初のボギー車群 〃 →H27. 2. 13 二代目87号
204	〃	〃	〃	〃	〃	H26. 8. 12	〃	(〃)	〃
206	〃	〃	〃	〃	〃				〃
208	〃	〃	〃	〃	〃			65	〃

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
210	S 25. 1.	日車	日車	三菱	S 25. 2.			65	初のボギー車群 最初に搬入就役 (S 25. 2. 10)
201	S 25. 2.	日立	日立	〃	S 25. 3.			65	
203	〃	〃	〃	〃	〃	H 26. 3. 31	老朽	〃	
205	〃	〃	〃	〃	〃			(64)	
207	〃	〃	〃	〃	〃			65	
209	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
二代目122	S 25. 10.	自社	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	S 25. 10.	S 42. 1. 20	老朽	(16)	車体新造車
〃 130 →二代目40	S 26. 1.	〃	〃	〃	S 26. 1.	〃	〃	(16)	〃 S 30. 8. 20 二代目40号に 改番
〃 133 →二代目43	S 26. 4. 29	〃	〃	〃	S 26. 4. 29	〃	〃	(15)	〃 S 37. 11. 30 二代目43号に 改番
211	S 26. 7.	日立	日立	日立	S 26. 7.			64	
212	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
213	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
214	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
215	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
216	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
二代目26	S 26. 7. 19	自社	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	S 26. 7. 19	S 43. 3. 30	老朽	(16)	車体新造車
〃 131	S 26. 11. 1	〃	〃	〃	S 26. 11. 1	〃	〃	(〃)	〃
〃 63	S 27. 2. 29	〃	〃	米国 W. H. 社	S 27. 2. 29	S 44. 6. 10	〃	(17)	〃
111	S 2. 4.	梅鉢	国産	奥村電機	S 27. 3. 27	S 37. 3. 31	老朽	(10)	大牟田電軌 3号→九州鉄道大牟田市内線 3号→西 鉄大牟田市内線164号→
112	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 4号→九州鉄道大牟田市内線 4号→西 鉄大牟田市内線165号→
113	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 5号→九州鉄道大牟田市内線 5号→西 鉄大牟田市内線166号→
114	〃	〃	〃	〃	〃	S 37. 11. 30	〃	(〃)	〃 7号→九州鉄道大牟田市内線 6号→西 鉄大牟田市内線168号→
115	S 3. 4.	東洋車両	〃	〃	〃	S 34. 6. 20	〃	(7)	〃 13号→21号→九州鉄道大牟田市内線21 号→西鉄大牟田市内線174号→
116	S 2. 4.	梅鉢	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 8号→九州鉄道大牟田市内線 8号→西 鉄大牟田市内線169号→
117	〃	東洋車両	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 10号→九州鉄道大牟田市内線10号→西 鉄大牟田市内線171号→
118	〃	〃	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	〃	〃	〃	(〃)	〃 11号→九州鉄道大牟田市内線11号→西 鉄大牟田市内線172号→
119	〃	〃	〃	〃	〃	S 34. 2.	〃	(6)	〃 12号→九州鉄道大牟田市内線12号→西 鉄大牟田市内線173号→
120	〃	梅鉢	国産	奥村電機	〃	S 37. 3. 31	〃	(10)	〃 6号→九州鉄道大牟田市内線 6号→西 鉄大牟田市内線167号→ S 34. 2 二代目115号に改番
二代目 4	S 28. 1. 21	自社	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	S 28. 1. 21	S 44. 6. 10	老朽	(16)	車体新造車 (車両課最後の製造)
〃 121	S 28. 10. 23	日車	米国 J. G. プリル社	米国 G. E. 社	S 28. 10. 23	S 29. 12.	老朽	(5)	南海電鉄→福博電車→西鉄福岡市内線 7号→ S 29. 12 三代目 1号に改番
〃 62	S 28. 11. 13	〃	〃	米国 W. H. 社	S 28. 11. 13	S 34. 2.	〃	(〃)	博多電軌→福博電車96号→西鉄福岡市内 線39号→
〃 1	S 28. 12.	枝光鉄工所	〃	米国 G. E. 社	S 28. 12.	S 29. 12.	〃	(1)	〃 →福博電車97号→西鉄福岡市内 線97号→50号→
〃 134	S 28. 12.	日車	〃	〃	〃	S 35. 4. 23	〃	(6)	福博電車→西鉄福岡市内線33号→
301	S 28. 11.	日立	日立	日立	S 28. 11.			62	
302	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
303	〃	〃	〃	〃	〃			〃	

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
304	S 28. 11.	日立	日立	日立	S 28. 11.			62	
305	S 28. 12.	〃	〃	〃	S 28. 12.			〃	
306	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
307	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
308	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
309	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
310	S 29. 1.	〃	〃	〃	S 29. 1.			61	
三代目 1	S 29. 12.	日車	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S 29. 12.	S 33.	老朽	(3)	二代目 121号の車体流用車
151	T 14. 9.	服部製作所	日車	三菱	S 32. 7. 17			58	王子電軌401号→東京都電101号→箱根登山鉄 道小田原市内線201号→ 車体を三真工業で更新
152	〃	〃	〃	〃	〃	S 62. 12. 10	老朽	(30)	〃 402号→東京都電102号→箱根登山鉄 道小田原市内線202号→ 車体を三真工業で更新
153	T 14. 6.	蒲田車両	汽車	東洋	〃	S 57. 3. 9	〃	(24)	玉川電鉄41号→東急玉川線25号→箱根登山鉄道 小田原市内線25号→201号→203号→ 車体を三真工業で更新
154	〃	〃	〃	〃	〃	S 60. 4. 10	〃	(27)	〃 42号→東急玉川線26号→箱根登山鉄道 小田原市内線26号→202号→204号→ 車体を三真工業で更新
155	〃	〃	〃	〃	〃	S 60. 10. 25	〃	(27)	〃 43号→東急玉川線27号→箱根登山鉄道 小田原市内線27号→203号→205号→ 車体を三真工業で更新
161	M 44. 5.	川崎造船所	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S 34. 2. 26	S 45. 2. 16	老朽	(11)	九州電軌19号→西鉄北九州線19号→西鉄福岡 市内線101号→
162	〃	〃	〃	〃	〃	S 53. 8. 26	〃	(19)	〃 6号→16号→西鉄北九州線16号→ 西鉄福岡市内線144号→
163	〃	〃	〃	〃	〃	S 45. 5.	〃	(11)	〃 29号→西鉄北九州線29号→19号→西 鉄福岡市内線146号→
166	T 1. 11.	〃	〃	〃	〃	S 45. 2. 16	〃	(〃)	〃 28号→西鉄北九州線28号→西鉄福岡 市内線103号→
167	M 44. 5.	〃	〃	〃	〃	S 47. 7.	〃	(13)	〃 4号→13号→西鉄北九州線13号→西 鉄福岡島線13号→西鉄福岡市内 線106号→
168	〃	〃	〃	〃	〃			56	〃 35号→西鉄北九州線23号→16号→西 鉄福岡市内線153号→
171	T 7. 12.	川崎造船所	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	S 34. 2. 26	S 45. 2. 16	老朽	(11)	九州電軌44号→西鉄北九州線44号→26号 →西鉄福岡市内線136号→
172	T 8. 11.	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 47号→西鉄北九州線47号→27号 →西鉄福岡市内線137号→
173	〃	〃	〃	〃	〃	S 51. 3. 11	〃	(17)	〃 50号→西鉄北九州線50号→28号 →西鉄福岡市内線138号→
174	T 10. 4.	〃	〃	〃	〃	S 45. 2. 16	〃	(11)	〃 60号→西鉄北九州線60号→30号 →西鉄福岡市内線140号→
175	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(〃)	〃 61号→西鉄北九州線61号→31号 →西鉄福岡市内線141号→
176	〃	〃	〃	〃	〃	S 51. 3. 11	〃	(17)	〃 65号→西鉄北九州線65号→33号 →西鉄福岡市内線143号→
177	T 1. 8.	〃	〃	〃	〃	S 45. 2. 16	〃	(11)	〃 25号→西鉄北九州線25号→18号 →西鉄福岡市内線156号→
361	S 36. 12.	日車	ナニワ	日車	S 36. 12.			54	
362	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
363	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
364	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
365	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
366	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
367	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
371	S 37. 9.	日車	日車	日車	S 37. 9.			53	
372	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
373	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
374	〃	〃	〃	〃	〃			〃	
375	〃	〃	〃	〃	〃			〃	

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
376 377	S 37. 9. 〃	日車 〃	日車 〃	日車 〃	S 37. 9. 〃			53 〃	
501	S 41. 12. 18	ナニワ	日車	三菱	S 41. 12. 18	H 26. 3. 31	老朽	(48)	搬入 S 41. 12. 10 車体新造車 台車は大阪市交通局1706号 S 61. 1. 17 台車更新 (JG77E→K-10型)
502	S 41. 12. 19	〃	〃	〃	S 41. 12. 19			49	搬入 S 41. 12. 11 車体新造車 台車は大阪市交通局1707号 S 61. 12. 2 台車更新 (JG77E→K-10型)
503	S 41. 12. 29	〃	〃	〃	S 41. 12. 29			〃	搬入 S 41. 12. 16 車体新造車 台車は大阪市交通局1756号 S 61. 12. 11 台車更新 (JG77E→K-10型)
504	〃	〃	〃	〃	〃			〃	搬入 S 41. 12. 16 車体新造車 台車は大阪市交通局1762号 S 63. 1. 27 台車更新 (JG77E→K-10型)
505	〃	〃	〃	〃	〃			〃	搬入 S 41. 12. 13 車体新造車 台車は大阪市交通局1767号 S 61. 12. 22 台車更新 (JG77E→K-10型)
506	S 41. 12. 30	〃	〃	〃	S 41. 12. 30			〃	搬入 S 41. 12. 13 車体新造車 台車は大阪市交通局1768号 H 3. 8. 18 台車更新 (JG77E→K-10型)
601 602	S 28. 3. 〃	新木南	住友	三菱	S 45. 2. 6 〃	S 62. 12. 10	老朽	45 (17)	搬入 S 44. 8 熊本市交通局171号→ 〃 〃 〃 172号→
701	S 30. 12.	ナニワ	日車、東急	神戸製鋼	S 45. 2. 6			45	搬入 S 44. 7. 10 東京都交通局杉並線2018号→
702	〃	〃	〃	〃	〃	H 10. 10. 19	老朽	(28)	〃 〃 東京都交通局杉並線2019号→
703	〃	〃	〃	〃	〃	H 5. 9. 1	〃	(23)	〃 〃 東京都交通局杉並線2020号→
704	〃	〃	〃	〃	〃	H 7. 3. 20	〃	(25)	〃 〃 東京都交通局杉並線2021号→
705	〃	東洋工機	〃	〃	〃	H 7. 9. 30	〃	(25)	〃 〃 東京都交通局杉並線2022号→
706	〃	〃	〃	〃	〃	H 10. 9. 16	〃	(28)	〃 〃 東京都交通局杉並線2024号→
801	S 24. 9.	日車	日車	三菱	S 50. 11. 12	S 57. 9. 6	老朽	(7)	搬入 S 47. 12. 7 東京都交通局3145号→ 台車は西鉄北九州線 C-10型
802	S 25. 12.	東京都電工場	〃	〃	S 51. 4. 21	〃	〃	(〃)	〃 〃 東京都交通局3215号→ 台車は西鉄北九州線 C-10型
1051	S 27. 7.	新潟	新潟	三菱	S 51. 12. 25			39	搬入 S 51. 12. 15 仙台市交通局96号→117号→ 台車は西鉄北九州線 K-10型
1052	〃	〃	〃	〃	S 51. 12. 7	H 5. 9. 1	老朽	(17)	搬入 S 51. 11. 16 仙台市交通局97号→118号→ 台車は西鉄北九州線 K-10型
1053	〃	〃	〃	〃	S 51. 10. 29	H 12. 12. 30	〃	(24)	搬入 S 51. 10. 16 仙台市交通局98号→119号→ 台車は西鉄北九州線 K-10型
1054	〃	〃	〃	〃	S 51. 11. 25	H 2. 12. 5	〃	(14)	搬入 S 51. 11. 2 仙台市交通局100号→121号→ 台車は西鉄北九州線 K-10型
1055	〃	〃	〃	〃	S 51. 10. 5	H 2. 12. 3	〃	(14)	搬入 S 51. 9. 16 仙台市交通局103号→124号→ 台車は西鉄北九州線 K-10型
2001 2002	S 55. 8. 5 〃	アルナ	住友	三菱	S 55. 8. 5 〃	H 26. 3. 31 H 22. 3. 31	老朽 〃	(34) (30)	搬入 S 55. 8. 2 新造車 (軽快電車) 〃 〃 〃
1201	S 57. 8. 11	アルナ工機	日車	日立	S 57. 8. 11			33	搬入 S 57. 8. 10 車体新造車 台車は西 鉄北九州線 K-10型 〃 〃 車体新造車 台車は西 鉄北九州線 K-10型→
1202	S 57. 8. 12	〃	住友	東洋電機	S 57. 8. 12			〃	H 17. 4. 16間接制御化、 台車更新 台車は西鉄 北九州線 FS-51型 〃 〃 車体新造車 台車は西 鉄北九州線 K-10型→
1203	〃	〃	〃	〃	〃			〃	H 16. 5. 20間接制御化、 台車更新 台車は西鉄 北九州線 FS-51型 〃 S 57. 8. 12 車体新造車 台車は西 鉄北九州線 K-10型→
1204	S 57. 8. 13	〃	〃	〃	S 57. 8. 13			〃	H 15. 10. 3間接制御化、 台車更新 台車は西鉄 北九州線 FS-51型

車 号	出 生 年月日	出 生 地			入 籍 年月日	除 籍		在籍 期間	経 歴
		車 体	台 車	電動機		年月日	事由		
1205	S 57. 8. 13	アルナ工機	住友	東洋電機	S 57. 8. 13			33	搬入 S 57. 8. 12 車体新造車 台車は西鉄北九州線 K-10型→H 15. 2. 17間接制御化、台車更新 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1301	S 62. 9. 9	アルナ工機	日立	日立	S 62. 9. 9			28	搬入 S 62. 9. 7 車体新造車 台車は西鉄北九州線 KL-11型
1302	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は西鉄北九州線 KL-11型
1303	S 63. 5. 21	〃	〃	〃	S 63. 5. 21			27	〃 S 62. 5. 17 車体新造車 台車は西鉄北九州線 KL-11型
1304	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は西鉄北九州線 KL-11型
1305	H 1. 6. 6	〃	〃	〃	H 1. 6. 6			26	〃 H 1. 6. 3 車体新造車 台車は西鉄北九州線 KL-11型
1501	H 5. 7. 10	アルナ工機	住友	東洋電機	H 5. 7. 10			22	搬入 H 5. 7. 5 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1502	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1503	H 6. 7. 7	〃	〃	〃	H 6. 7. 7			21	〃 H 6. 7. 4 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1504	H 7. 6. 22	〃	〃	〃	H 7. 6. 22			20	〃 H 7. 6. 19 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1505	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1506	H 8. 6. 27	〃	〃	〃	H 8. 6. 27			19	〃 H 8. 6. 25 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1507	H 9. 6. 23	〃	〃	〃	H 9. 6. 23			18	〃 H 9. 6. 19 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型 →H 22. 8. 13間接制御化
1701	H 11. 3. 26	アルナ工機	日車	日立	H 11. 3. 26			16	搬入 H 11. 3. 23 車体新造車 台車は元700形 D16NA 型
1702	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は元700形 D16NA 型
1801	H 12. 12. 6	アルナ工機	住友	東洋電機	H 12. 12. 6			15	搬入 H 12. 12. 4 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1802	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃 〃 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
1803	H 14. 1. 30	〃	〃	〃	H 14. 1. 30			13	〃 H 14. 1. 28 車体新造車 台車は西鉄北九州線 FS-51型
3001	H 15. 12. 19	アルナ車両	住友	東洋電機	H 15. 12. 19			12	搬入 H 15. 12. 16 新造車
3002	H 17. 1. 21	〃	〃	〃	H 17. 1. 21			10	〃 H 17. 1. 17 〃
3003	H 18. 1. 26	〃	〃	〃	H 18. 1. 26			9	〃 H 18. 1. 23 〃
5001	H 23. 1. 13	アルナ車両	住友	東洋電機	H 23. 1. 13			4	搬入 H 23. 1. 11 新造車
5002	H 24. 2. 7	〃	〃	〃	H 24. 2. 7			3	〃 H 24. 2. 6 〃
散水車101	T 5. 8. 10	久保鉄工場	不詳	不詳	T 5. 8. 10	T 10. 5. 23	火災	(4)	台車、電機は阪神電鉄より購入
工事用 運搬車102	T 9. 1. 24	自社	〃	〃	T 9. 1. 24	T 10.	不要	(1)	第3期線工事用
〃 103	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(1)	〃
散水車 二代目101	T 11. 8. 1	タンク 伊藤文吉	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	T 11. 8. 1	S 19. 10. 10	火災	(22)	初代101号を更新
運搬車 三代目101	S 29. 10.	自社	〃	〃	S 29. 10.	S 47. 10. 5	老朽	(18)	初代1号を改造した運搬車
87	M 44. 9.	深川	日車	奥村	S 52. 4. 4	H 22. 8. 31	老朽	(33)	搬入 S 53. 3. 24 西鉄21号→花電車用
88	S 4.	日車	米国 J.G. プリル社	米国 G.E. 社	H 1. 4. 17	H 22. 8. 31	老朽	(21)	〃 H 1. 2. 西鉄牽引車 (旧福岡市内線67号) →花電車用
二代目87	S 25. 1.	日車	日車	三菱	H 27. 2. 13			1	元202形204号を自社改造

車両図表

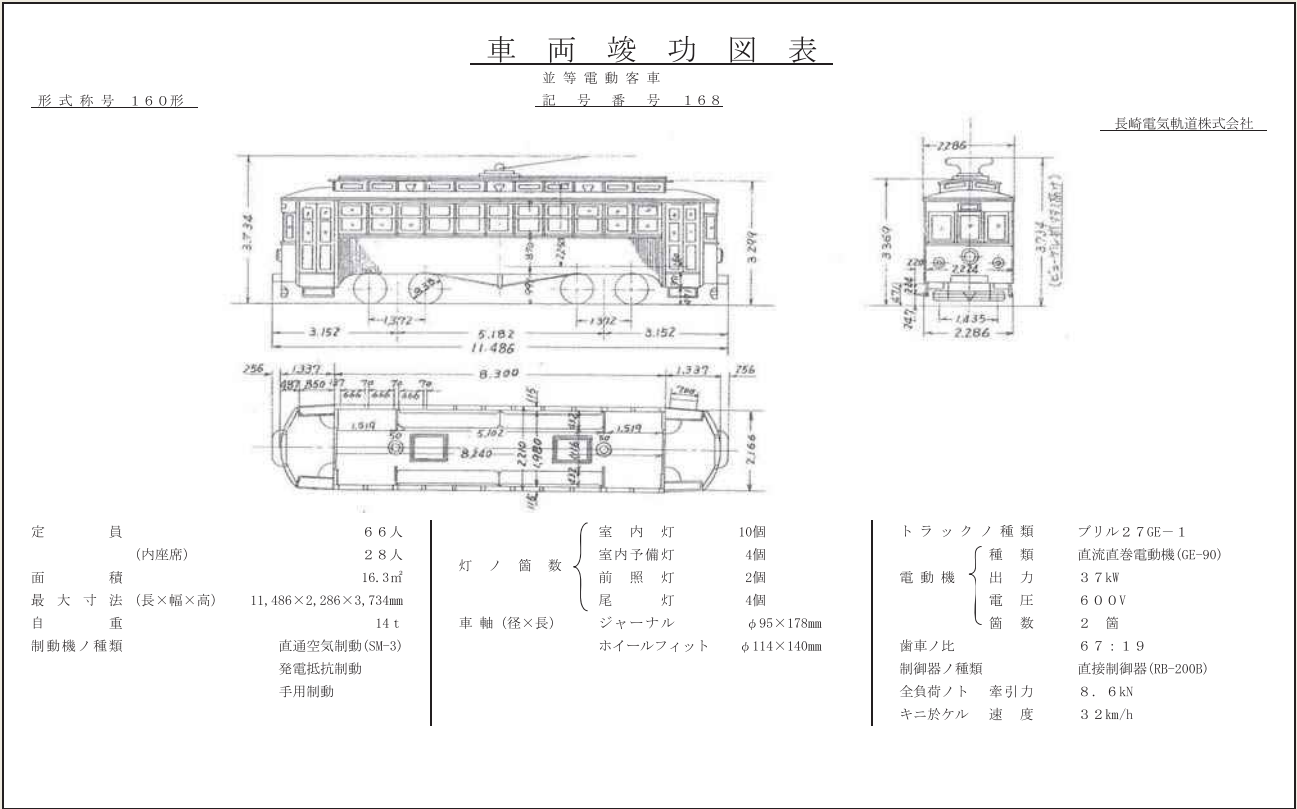
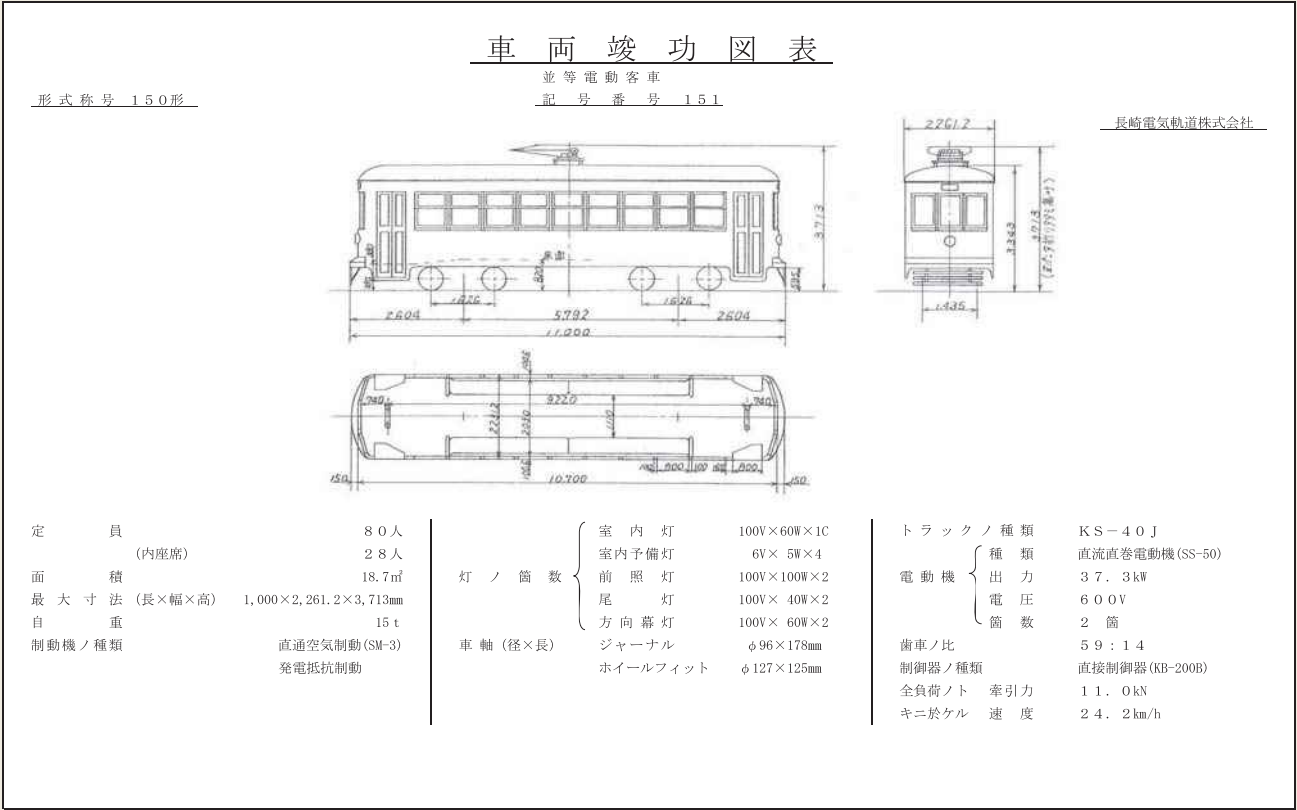
車両主要諸元表

車 種	形式	車 号	両数	自重 (t)	定員 (人)	最大寸法 (mm)	製造年月	台車型式
電動客車 (ツーマン)	150	151	1	15	80 座 28 立 52	(長) 11,000 (幅) 2,261.2 (高) 3,713	T 14. 9	KS-40J
〃	160	168	1	14	66 座 28 立 38	11,486 2,286 3,734	M 44. 5	ブリル27GE-1
電動客車 (ワンマン)	201	201・203 207・209	4	15.8	76 座 34 立 42	11,000 2,260 3,600	S 25. 2	SA-W1
〃	202	202・208 210	3	15.8	76 座 34 立 42	11,000 2,260 3,600	S 25. 1	K-10
〃	211	211～216	6	15.8	76 座 34 立 42	11,000 2,260 3,600	S 26. 7	KBD-12
〃	300	301～310	10	15.7	76 座 34 立 42	11,000 2,260 3,600	301～304 S 28. 11 305～309 S 28. 12 310 S 29. 1	KBD-12B
〃	360	361～367	7	15	82 座 30 立 52	11,000 2,270 3,830	S 36. 11	NK-25
〃	370	371～377	7	15	80 座 28 立 52	11,000 2,270 3,830	S 37. 9	NS-17
〃	500	502～506	5	15.3	82 座 34 立 48	11,500 2,270 3,640	S 41. 12	K-10
〃	600	601	1	14	70 座 28 立 42	11,000 2,277 3,830	S 28. 3	KS-40J
〃	700	701	1	14.5	94 座 28 立 66	11,700 2,153.2 3,830	S 30. 12	D16NA
〃	1050	1051	1	14	84 座 28 立 56	11,400 2,174 3,665	S 27. 7	K-10
〃	1200	1201	1	15.5	72 座 28 立 44	11,700 2,250 3,830	S 57. 8	K-10
〃	1200A	1202～1205	4	15.8	72 座 28 立 44	11,700 2,250 3,830	S 57. 8	FS-51
〃	1300	1301～1305	5	15.3	53 座 28 立 25	11,700 2,250 3,830	1301・1302 S 62. 9 1303・1304 S 63. 5 1305 H 1. 6	KL-11
〃	1500	1501～1506	6	15.5	53 座 28 立 25	11,700 2,250 3,830	1501・1502 H 5. 7 1503 H 6. 7 1504・1505 H 7. 6 1506 H 8. 6	FS-51
〃	1500A	1507	1	15.6	53 座 28 立 25	11,700 2,250 3,830	H 9. 6	FS-51
〃	1700	1701・1702	2	15.3	53 座 28 立 25	11,700 2,250 3,830	H 11. 3	D16NA
〃	1800	1801～1803	3	15.8	55 座 28 立 27	12,140 2,300 3,740	1801・1802 H 12. 12 1803 H 14. 1	FS-51
〃	3000	3001～3003	3	22	63 座 28 立 35	15,100 2,300 3,740	3001 H 15. 12 3002 H 17. 1 3003 H 18. 1	SS03
〃	5000	5001・5002	2	22	73 座 27 立 46	16,300 2,300 3,740	5001 H 23. 1 5002 H 24. 2	SS10
貨物電車 (花電車)	87	87	1	14.4	—	11,000 2,260 3,600	H 27. 2	K-10

平成27年4月1日現在

電 動 機					制 御 器		製造所名	記 事
種 類	電圧(V)	個数	出力(kw)	総出力(kw)	種 類	型 式		
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	RB200-B	服部製作所	S 32. 2 箱根登山鉄道(株)より譲受
GE-90	DC600	2	37	74	直接制御	RB200-B	川崎造船所	S 33. 12 西日本鉄道(株)より譲受
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	日立製作所	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	日本車両	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	DRBC447A	日立製作所	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	301~304 DRBC447A 他 DRBC447	日立製作所	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	NKR-8	日本車両	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	NKR-8	日本車両	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	ナニワ工機	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	新木南車両	S 44. 8 熊本市交通局より譲受
TB-28A	DC600	2	37	74	直接制御	KR-8	ナニワ工機	S 44. 7 東京都交通局より譲受
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	新潟鉄工所	S 51. 4 仙台市交通局より譲受
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	アルナ工機	
TDK-524-2C	DC600	2	45	90	間接制御	ES653-A-M	アルナ工機	H17. 4…1202、H16. 5…1203 H15. 9…1204、H15. 2…1205 間接制御化、台車更新
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	DRBC447	アルナ工機	
TDK-524-2C	DC600	2	45	90	直接制御	DRBC447	アルナ工機	
TDK-524-2C	DC600	2	45	90	間接制御	ES653-A-M	アルナ工機	H22. 8…1507 間接制御化
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	DRBC447	アルナ工機	
TDK-524-2C	DC600	2	45	90	間接制御	ES653-A-M	アルナ工機	
TDK6407-A	DC600	2	85	170	VVVF インバーター 制御	RG686-A-M	アルナ車両	
TDK6407-A1	DC600	2	85	170	VVVF インバーター 制御	SVF087-B0	アルナ車両	
SS-50	DC600	2	38	76	直接制御	KR-8	日本車両	元204号を改造

車両竣工図表



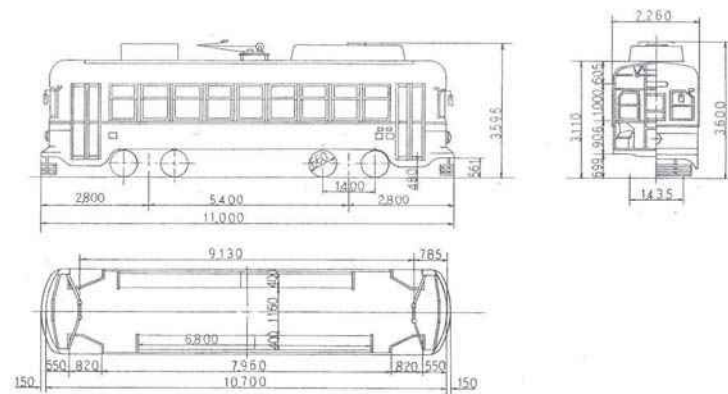
車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車

記 号 番 号 201、203、207、209

形 式 称 号 201形

長崎電気軌道株式会社



定 員	76人
(内座席)	34人
面 積	18m ²
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,260×3,600mm
自 重	15.8 t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯 ノ 箇 数	室 内 灯 200V×40W×6 室内予備灯 24V×20W×2 ステップ灯 24V×20W×4 車 外 灯 24V×20W×2 前 照 灯 24V×70W×2 尾 灯 24V×20W×2 方 向 幕 灯 24V×20W×4 ジャーナル φ85×155mm ホイールフィット φ135×148.5mm
車 軸 (径×長)	

トラックノ種類	SA-W1
電動機ノ種類	直流直巻電動機(SS-50)
出力	3.8kW
電 圧	600V
箇 数	2 箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器(KR-8)
全負荷ノト 牽引力	10.8kN
キニ於ケル 速 度	24.0km/h

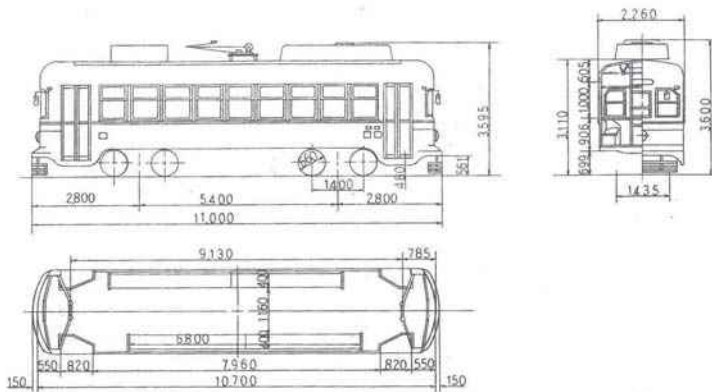
車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車

記 号 番 号 202、208、210

形 式 称 号 202形

長崎電気軌道株式会社



定 員	76人
(内座席)	34人
面 積	18m ²
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,260×3,600mm
自 重	15.8 t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯 ノ 箇 数	室 内 灯 200V×40W×6 室内予備灯 24V×20W×2 ステップ灯 24V×20W×4 車 外 灯 24V×20W×2 前 照 灯 24V×70W×2 尾 灯 24V×20W×2 方 向 幕 灯 24V×20W×4 ジャーナル φ85×155mm ホイールフィット φ135×148.5mm
車 軸 (径×長)	

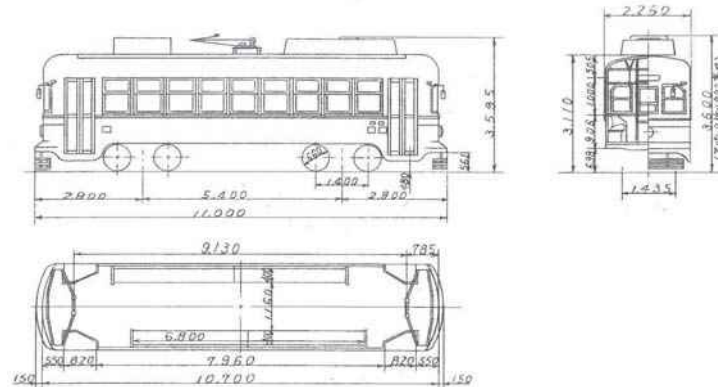
トラックノ種類	K-10
電動機ノ種類	直流直巻電動機(SS-50)
出力	3.8kW
電 圧	600V
箇 数	2 箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器(KR-8)
全負荷ノト 牽引力	10.8kN
キニ於ケル 速 度	24.0km/h

車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車
記 号 番 号 211~216

形 式 称 号 211形

長崎電気軌道株式会社



定 員	76人
(内座席)	34人
面 積	18㎡
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,260×3,600mm
自 重	15.8 t
制 動 機 ノ 種 類	直通空気制動 (SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯 ノ 箇 数	室 内 灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×20W×2
	ステップ灯	24V×20W×4
	車 外 灯	24V×20W×2
	前 照 灯	24V×70W×2
	尾 灯	24V×20W×2
車 軸 (径×長)	方 向 幕 灯	24V×20W×4
	ジャーナル	φ96×178mm
	ホイールフィット	φ128×150mm

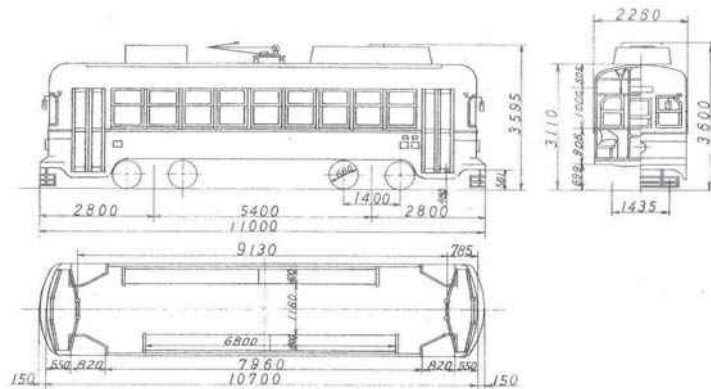
ト ラ ッ ク ノ 種 類	K B D - 1 2	
電 動 機	種 類	直 流 直 巻 電 動 機 (SS-50)
	出 力	3 8 k W
	電 圧	6 0 0 V
	箇 数	2 箇
歯 車 ノ 比	5 9 : 1 4	
制 御 器 ノ 種 類	直 接 制 御 器 (DRBC447A)	
全 負 荷 ノ ト	牽 引 力	1 0 . 8 k N
キ ニ 於 ケ ル	速 度	2 4 . 0 k m / h

車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車
記 号 番 号 301~310

形 式 称 号 300形

長崎電気軌道株式会社



定 員	76人
(内座席)	34人
面 積	18㎡
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,260×3,600mm
自 重	15.7 t
制 動 機 ノ 種 類	直通空気制動 (SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯 ノ 箇 数	室 内 灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×20W×2
	ステップ灯	24V×20W×4
	車 外 灯	24V×20W×2
	前 照 灯	24V×70W×2
	尾 灯	24V×20W×2
車 軸 (径×長)	方 向 幕 灯	24V×20W×4
	ジャーナル	φ85×155mm
	ホイールフィット	φ128×150mm

トラックノ種類	KBD-12B	
電動機	種類	直流直巻電動機(SS-50)
	出力	38kW
	電圧	600V
	箇 数	2 箇
歯車ノ比	59:14	
制御器ノ種類	直接制御器(DRBC447)	
全負荷ノト	牽引力	10.8kN
キニ於ケル	速 度	24.0km/h

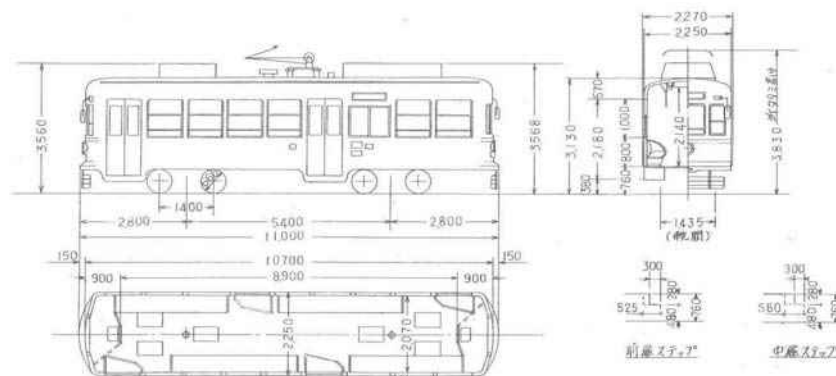
車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車

記 号 番 号 361~367

形 式 称 号 360形

長崎電気軌道株式会社



定 員	82人
(内座席)	30人
面 積	18.4m ²
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,270×3,830mm
自 重	15 t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯ノ箇數	室内灯 200V×40W×6 室内予備灯 24V×20W×2 ステップ灯 24V×20W×4 車外灯 24V×20W×2 前照灯 24V×70W×2 尾灯 24V×15W×4 方向幕灯 24V×20W×6 ジャーナル ホイールフィット
車軸(径×長)	φ85×165mm φ128×165mm

トラックノ種類	NK-25
電動機	種類 直流直巻電動機(SS-50) 出力 38kW 電圧 600V 箇數 2箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器(NKR-8)
全負荷ノト	牽引力 11.0kN
キニ於ケル	速度 24.2km/h

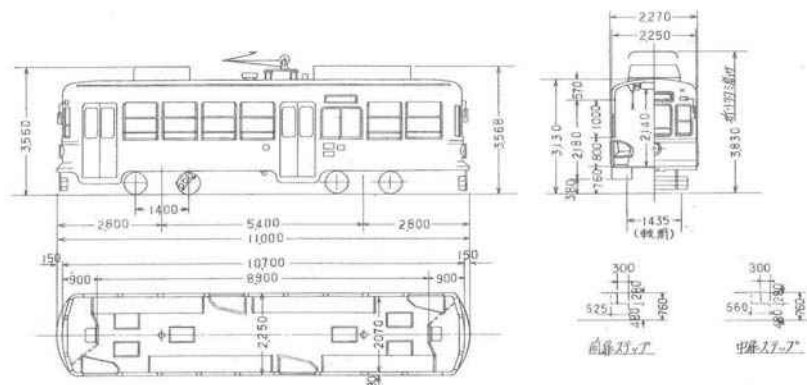
車 両 竣 功 図 表

並 等 電 動 客 車

記 号 番 号 371~377

形 式 称 号 370形

長崎電気軌道株式会社



定 員	82人
(内座席)	28人
面 積	18.4m ²
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,000×2,270×3,830mm
自 重	15 t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯ノ箇數	室内灯 200V×40W×6 室内予備灯 24V×20W×2 ステップ灯 24V×20W×4 車外灯 24V×20W×2 前照灯 24V×70W×2 尾灯 24V×15W×4 方向幕灯 24V×20W×6 ジャーナル ホイールフィット
車軸(径×長)	φ85×165mm φ128×165mm

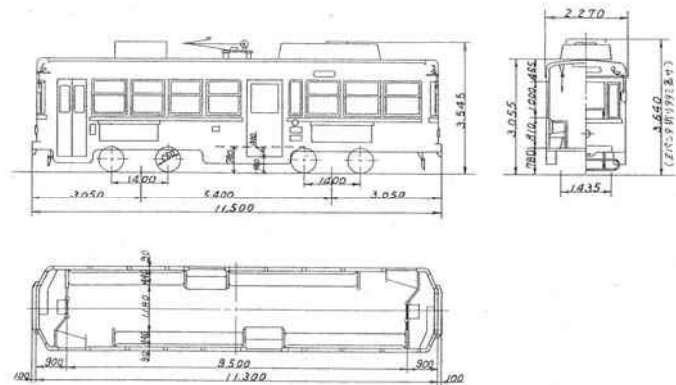
トラックノ種類	NS-17
電動機	種類 直流直巻電動機(SS-50) 出力 38kW 電圧 600V 箇數 2箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器(NKR-8)
全負荷ノト	牽引力 11.0kN
キニ於ケル	速度 24.2km/h

車両竣工図表

形式番号 500形

並等電動客車
記号番号 502~506

長崎電気軌道株式会社



定員	82人
(内座席)	34人
面積	19.57㎡
最大寸法 (長×幅×高)	11,500×2,270×3,640mm
自重	15.3t
制動機ノ種類	直通空気制動 (SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯ノ箇數	室内灯 200V×40W×6 室内予備灯 24V×20W×2 ステップ灯 24V×20W×4 車外灯 24V×20W×2 前照灯 24V×70W×2 尾灯 24V×20W×2 方向幕灯 24V×20W×4 ジャーナル ホイールフィット
車軸 (径×長)	φ85×155mm φ135×148.5mm

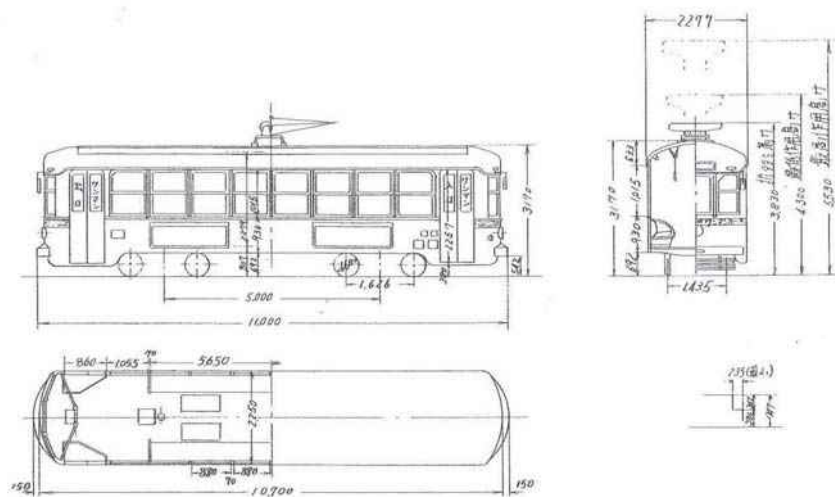
トラックノ種類	K-10
電動機	直流直巻電動機 (SS-50)
出力	3.8kW
電圧	600V
箇數	2箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器 (KR-8)
全負荷ノ牽引力	11.0kN
キニ於ケル速度	24.0km/h

車両竣工図表

形式番号 600形

並等電動客車
記号番号 601

長崎電気軌道株式会社



定員	70人
(内座席)	28人
面積	18.85㎡
最大寸法 (長×幅×高)	11,000×2,277×3,830mm
自重	14t
制動機ノ種類	直通空気制動 (SM-3) 発電抵抗制動 非常制動 補助制動

灯ノ箇數	室内灯 100V×60W×10 室内予備灯 24V×10W×2 ステップ灯 24V×30W×2 24V×10W×2 車外灯 24V×5W×2 前照灯 100V×60W×2 尾灯 100V×60W×2 方向幕灯 100V×60W×2 ジャーナル ホイールフィット
車軸 (径×長)	φ96×178mm φ127×152mm

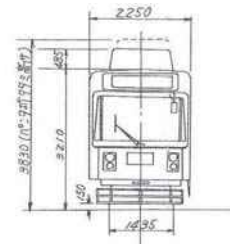
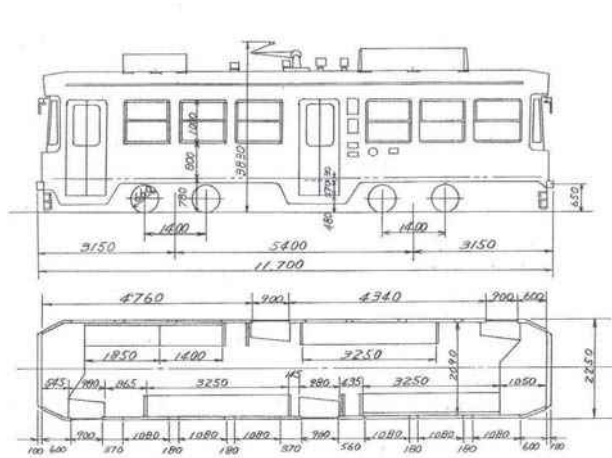
トラックノ種類	KS-40J
電動機	直流直巻電動機 (SS-50)
出力	3.8kW
電圧	600V
箇數	2箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器 (KR-8)
全負荷ノ牽引力	11.2kN
キニ於ケル速度	24.0km/h

車両竣工図表

形式 称号 1200形

並等電動客車
記号番号 1201

長崎電気軌道株式会社



定員	72人
(内座席)	28人
面積	18.77㎡
最大寸法 (長×幅×高)	11,700×2,250×3,830mm
自重	15.5t
制動機ノ種類	直通空気制動 (SM-3)
	発電抵抗制動
	補助制動装置付
	保安ブレーキ付

灯ノ箇数	室内灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×40W×2
	ステップ灯	24V×10W×4
	車外灯	24V×12W×2
	前照灯	24V×55W×4
	尾灯	24V×20W×4
車軸 (径×長)	方向幕灯	24V×40W×2
	ジャーナル	φ85×155mm
	ホイールフィット	φ135×148.5mm

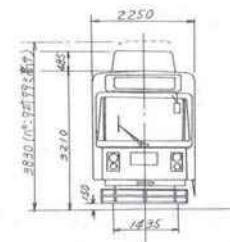
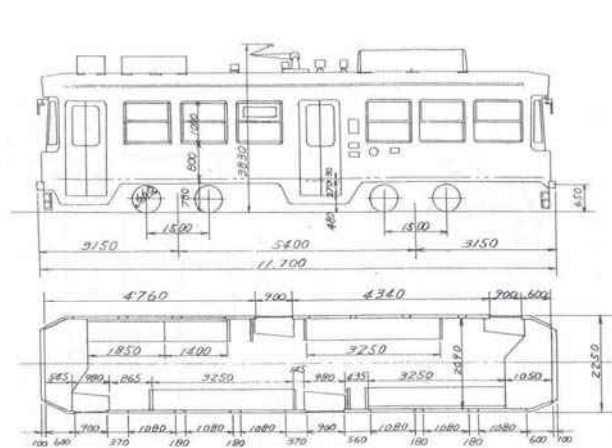
トラックノ種類	K-10
電動機ノ種類	直流直巻電動機 (SS-50)
出力	3.8kW
電圧	600V
箇数	2箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器 (KR-8)
全負荷ノト	牽引力 11.0kN
キニ於ケル	速度 24.0km/h

車両竣工図表

形式 称号 1200A形

並等電動客車
記号番号 1202~1205

長崎電気軌道株式会社



定員	72人
(内座席)	28人
面積	18.77㎡
最大寸法 (長×幅×高)	11,700×2,250×3,830mm
自重	15.8t
制動機ノ種類	直通空気制動 (SM-3)
	発電抵抗制動
	補助制動装置付
	保安ブレーキ付

灯ノ箇数	室内灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×40W×2
	ステップ灯	24V×10W×4
	車外灯	24V×12W×2
	前照灯	24V×55W×4
	尾灯	24V×20W×4
車軸 (径×長)	方向幕灯	24V×40W×2
	ジャーナル	φ85×155mm
	ホイールフィット	φ135×153.5mm

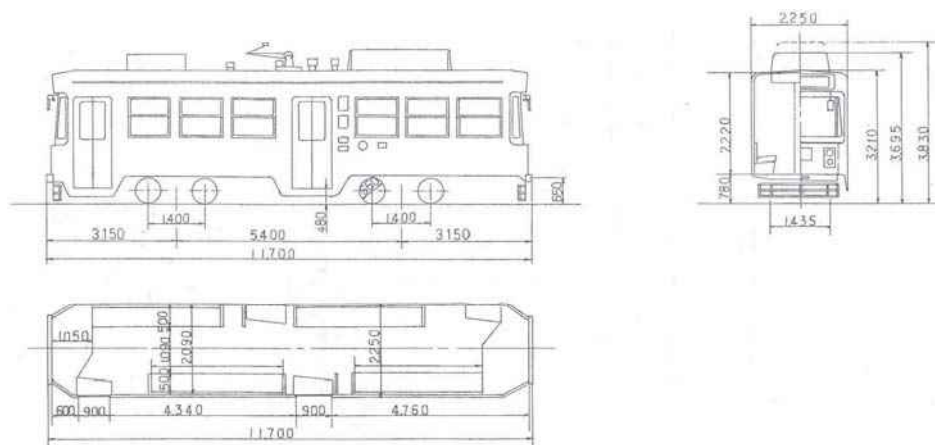
トラックノ種類	FS-51
電動機ノ種類	直流直巻電動機 (TDK-524-2C)
出力	4.5kW
電圧	600V
箇数	2箇
歯車ノ比	59:19
制御器ノ種類	間接制御器 (ES653-A-M)
全負荷ノト	牽引力 8.6kN
キニ於ケル	速度 34.1km/h

車 両 竣 功 図 表

形式 称 号 1300形

並 等 電 動 客 車
記 号 番 号 1301~1305

長崎電気軌道株式会社



定 員	53人
(内座席)	28人
面 積	18.77㎡
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,700×2,250×3,830mm
自 重	15.3t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3)
	発電抵抗制動
	補助制動装置付
	保安ブレーキ付

灯ノ箇数	室内灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×40W×2
	ステップ灯	24V×10W×4
	車外灯	24V×12W×2
	前照灯	24V×55W×4
	尾灯	24V×20W×4
	方向幕灯	24V×40W×2
車軸(径×長)	ジャーナル	φ85×150mm
	ホイールフィット	φ135×149mm

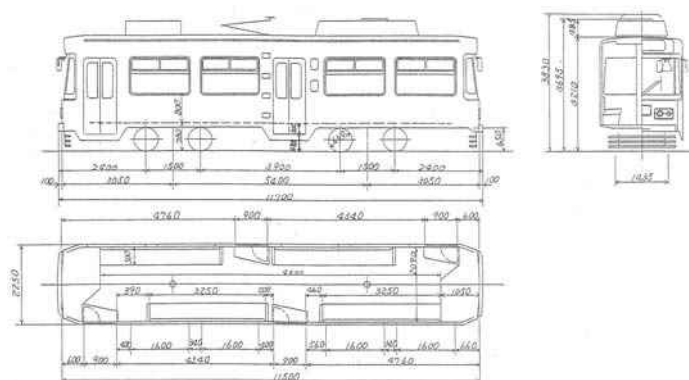
トラックノ種類	KL-11
電動機	直流直巻電動機(SS-50)
出力	3.8kW
電圧	600V
箇 数	2 箇
歯車ノ比	59:14
制御器ノ種類	直接制御器(DRBC447)
全負荷ノト	牽引力
キニ於ケル	速 度

車 両 竣 功 図 表

形式 称 号 1500形

並 等 電 動 客 車
記 号 番 号 1501~1506

長崎電気軌道株式会社



定 員	53人
(内座席)	28人
面 積	18.77㎡
最 大 寸 法 (長×幅×高)	11,700×2,250×3,830mm
自 重	15.5t
制動機ノ種類	直通空気制動(SM-3)
	発電抵抗制動

灯ノ箇数	室内灯	200V×40W×6
	室内予備灯	24V×40W×2
	ステップ灯	24V×10W×4
	車外灯	24V×12W×2
	前照灯	24V×55W×4
	尾灯	24V×20W×4
	方向幕灯	24V×40W×2
車軸(径×長)	ジャーナル	φ85×155mm
	ホイールフィット	φ135×153.5mm

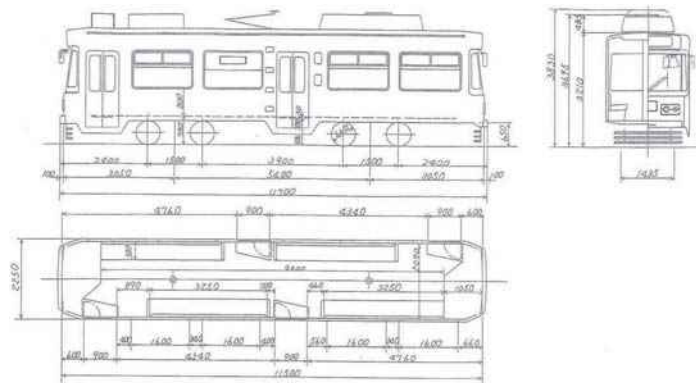
トラックノ種類	FS-51
電動機	直流直巻電動機(TDK-524-2C)
出力	4.5kW
電圧	600V
箇 数	2 箇
歯車ノ比	59:19
制御器ノ種類	直接制御器(DRBC447)
全負荷ノト	牽引力
キニ於ケル	速 度

車両竣工図表

形式称号 1500A形

並等電動客車
記号番号 1507

長崎電気軌道株式会社



定員 53人
(内座席) 28人
面積 18.77㎡
最大寸法 (長×幅×高) 11,700×2,250×3,830mm
自重 15.6t
制動機ノ種類 直通空気制動(SM-3)
発電抵抗制動

灯ノ箇數

室内灯	200V×40W×6
室内予備灯	24V×40W×2
ステップ灯	24V×10W×4
車外灯	24V×12W×2
前照灯	24V×55W×4
尾灯	24V×20W×4
方向幕灯	24V×40W×2
車軸 (径×長)	φ85×155mm
ジャーナル	φ135×153.5mm
ホイールフィット	

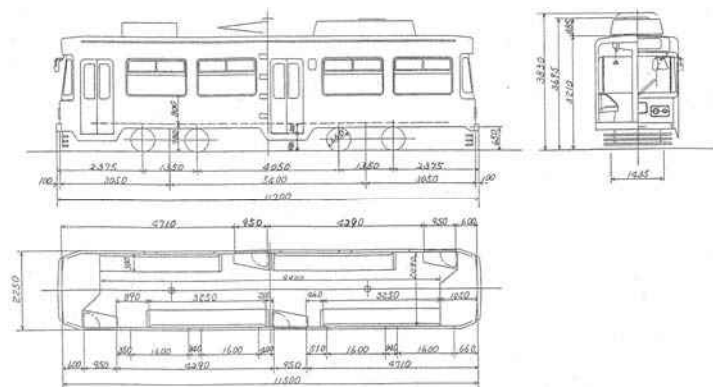
トラックノ種類 FS-51
電動機 種類 直流直巻電動機(TDK-524-2C)
出力 45kW
電圧 600V
箇數 2箇
歯車ノ比 59:19
制御器ノ種類 間接制御器(ES653-A-M)
全負荷ノ牽引力 8.7kN
キニ於ケル速度 34.4km/h

車両竣工図表

形式称号 1700形

並等電動客車
記号番号 1701, 1702

長崎電気軌道株式会社



定員 53人
(内座席) 28人
面積 18.77㎡
最大寸法 (長×幅×高) 11,700×2,250×3,830mm
自重 15.3t
制動機ノ種類 直通空気制動(SM-3)
発電抵抗制動

灯ノ箇數

室内灯	200V×40W×6
室内予備灯	24V×40W×2
ステップ灯	24V×10W×4
車外灯	24V×12W×2
前照灯	24V×55W×4
尾灯	24V×20W×4
方向幕灯	24V×40W×2
車軸 (径×長)	φ85×155mm
ジャーナル	φ128×142mm
ホイールフィット	

トラックノ種類 D16NA
電動機 種類 直流直巻電動機(SS-50)
出力 38kW
電圧 600V
箇數 2箇
歯車ノ比 59:14
制御器ノ種類 直接制御器(DRBC447)
全負荷ノ牽引力 11.0kN
キニ於ケル速度 24.0km/h

広告・不動産



「 廣 告 」

広告事業の取り組み

広告業のはじまり

開業当時は電車広告は無かったようで、大正9年8月1日、土肥佐蔵という人と、24両分の電車内と電柱について1ヶ年3,008円で委託契約したのが最初であったとのことである。

その後、いくつかの変遷を経て、昭和17年4月1日から折込広告社との間に同じく車内及び電柱で、年間5,400円で契約している。折込広告社とは、その後港内連絡船の船舶内広告掲出も加えることにしたが、昭和18年12月18日にこの業務を長崎市に譲渡したことによって船舶内広告はなくなった。



松山町停留場付近の電柱広告

兼営事業の積極推進

従来委託契約制であった広告業を昭和42年4月1日より自営開始をきっかけに、昭和46年のバス譲渡後、企業再建の中でその重要な一翼を担って、電車媒体を最大限に利用した広告部門を中心に積極的な推進が図られたのが兼営事業部である。特に昭和50年10月に発足した、4部7課の新機構で兼営事業部として組織を確立し、更に昭和58年4月これを補強、営業成績も順調に向上した。

広告事業の転換

最大の広告事業の転換は昭和42年4月1日に発足した広告業の自由化である。従来までの委託契約方式をやめ、代理店形式として持ち込まれる広告については、手数料制にし、他の一切を直営化したものである。

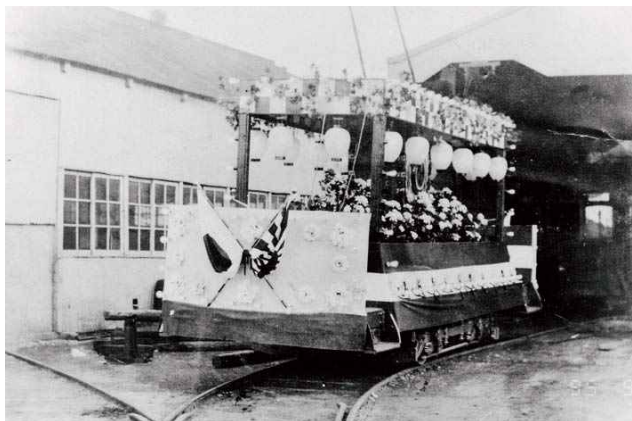
当初さまざまな困難に遭いながらも、広告業に対する意欲的な取り組みの中で、

- ①媒体としての電車車両数が増加した。この車両にしても木造単車時代と異なり、車両の近代化の中の増加だった。
- ②車両の近代化の中で、動く媒体として広告の速効性もあり、広告性も向上、現在の社会情勢の中での広告価値に注目された。
- ③車両媒体にしても、工夫を加えて広告箇所を増やし、その他のあらゆる設備も活用したのでスポンサーも増加、広告料金のアップもあった。

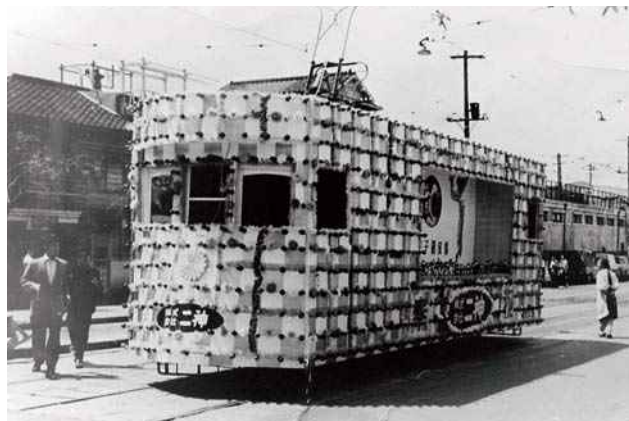
代理店も自営化当初の9社から10数社と増加し、広告料収入も兼営事業収入の70%以上を占めるまでに飛躍的に増加した。

花電車

当社がはじめて花電車を出したのは、大正4年11月16日、大正天皇御大典記念日に当って開業したので、奉祝と開業記念を兼ねて製作した3両であった。その後、昭和3年昭和天皇即位御大典記念に3両、昭和9年雲仙国立公園指定記念に2両、昭和23年戦災復旧を祝って市の行事の一つとして2両、翌24年市文化祭記念に2両、昭和34年4月皇太子御成婚に1両、それぞれ出したのが主なものであった。



昭和天皇御大典記念 昭和3年



皇太子御成婚記念 昭和34年



ながさきまつり 昭和53年



花まつり



長崎ランタンフェスティバル PR



電車開通70周年記念 昭和60年

カラー電車

広告事業の中で特筆されるのは、カラー電車である。この車体全面を広告媒体とすることはOBの故・田栗優一氏が在職中に福岡の大宰府に初詣に行った時、西鉄大牟田線の電車の車体に直に文字が書いてあったのにヒントを得て、全国に先駆けて行ったもので、昭和39年9月4日カネボウ化粧品のPRに使った371号が初めてである。その後、電車全体を独特の塗装で行うこの車体全面広告は、デザイナーの最も苦心するところであるが、色々と創意工夫が加えられ、宣伝効果もよく人気を呼んでその後全国の路面電車も実施されている。



第1号 カラー電車（カネボウ化粧品号 昭和39年）



日立掃除機号



浜屋百貨店号

カラー電車コンテスト

カラー電車に関してデザイン的により優れたものを創出し、広告スポンサーや一般市民の認知度を高める目的で企画され、「長崎の街に似合うカラー電車コンテスト」というタイトルで、平成16年12月1日から平成17年2月末日を開催期間として始まったのが第一回である。一次選考として開催期間にポスターや新聞広告、ホームページで人気投票を募り、二次選考の社内審査を経て各賞を決定した。長崎の街の佇まいによくマッチして、訴求力・表現力等が総合的に優れているものとして「カラー電車大賞」、色彩・デザイン・芸術性に特に優れているものとして「デザイン賞」、人気投票でより多くの支持を得たものとして「観客賞」、カラー電車のPRに永年功労して頂いたものなどを「特別賞」とする審査基準が設けられた。



第1回カラー電車大賞／長崎ケーブルメディア



第1回特別賞／明治製菓



第5回カラー電車大賞／ハウステンボス



第5回特別賞／テレビ長崎

カラー電車コンテスト受賞一覧

平成16年	【カラー電車大賞】 1802号 NCM ディズニーチャンネル 【デザイン賞】 1303号 ロッテグリーンガム 1803号 コカコーラ C2 【観客賞】 1506号 チキンラーメン 【特別賞】 363号 Meiji のお菓子 501号 平成長崎俵物
平成17年	【カラー電車大賞】 1507号 JA 長崎びわ 【デザイン賞】 1803号 ハウステンボス 1507号 大ナポレオン展 【観客賞】 1802号 NCM ディズニー ch 【特別賞】 505号 ぜに屋本店 1302号 JCB18カード 【奨励賞】 372号 そのぎ茶 1203号 ポカリスエット 1801号 コカコーラ・ー (はじめ)
平成18年	【カラー電車大賞】 502号 ピンクリボン 【デザイン賞】 363号 明治製菓カール 1203号 スカイネットアジア航空 【観客賞】 366号 サロンドボーテ REI 1201号 JA 長崎せいひびわ 【特別賞】 1305号 九州急行バス 【奨励賞】 1505号 Kampo
平成19年	【カラー電車大賞】 1803号 リンガーハット 【デザイン賞】 1505号 アミュプラザ長崎 【観客賞】 377号 サントリー BOSS 【特別賞】 365号 長崎さるく 【奨励賞】 361号 日立・白くまくん
平成20年	【カラー電車大賞】 1504号 ハウステンボス 【デザイン賞】 1301号 LISMO 【観客賞】 1701号 アレコレカード 【特別賞】 1202号 KTN 【奨励賞】 1304号 リクナビ

超低床式路面電車ラッピング広告（3000形・5000形）

平成16年3月に運行を開始された超低床式電車の3000形は広告電車化するまでに時間を要した。主な理由としては、当初、その車両のオリジナルデザインが公的に認められ、2004グッドデザイン賞（日本産業デザイン振興会）、2005ローレル賞（鉄道友の会）・2005第14回長崎市都市景観賞奨励賞（長崎市）の各賞を受賞したために、その外観に広告を施すことが躊躇されたためである。

受賞の余韻が覚めてきて、広告収入増のために思い切ったのは平成23年11月、長崎県子ども家庭課より受諾した「オレンジリボン号」が最初である。連接式の車体が長く塗装工場に入りきらないため、塗装を一切伴わないことを条件に、指定範囲にインクジェット出力シートを貼り付ける工法で3003号に施工した。オレンジリボン号の広告掲出が好評を得た

ために、その後他の3001号、3002号の2車両も使って西部ガス、親和銀行、NTTドコモ&長崎ケーブルメディア（タイアップ企画）、長崎国体、菱塩の各スポンサーの広告を掲出した。

平成23年2月に導入された5000形に広告を誘致したのは平成25年9月のことである。株式会社唐草をスポンサーとして5001号に「長崎物語号」と5002号に「おたくさ号」の2両で広告スタートした。5000形の広告化は3000形電車が良い前例となりスムーズに企画化され、時を同じくしてカラー電車広告を検討していた唐草の目に留まりこの企画が採用された。広告デザインも車両の形状が熟慮されたもので、もともとのカラーリングを忘れさせるほどの自然なレイアウトで違和感がなく各方面から好評を得た。



「オレンジリボン号」平成23年11月



「2014長崎国体号」平成25年5月



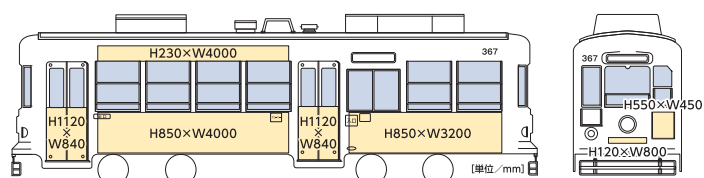
「長崎物語号」平成25年9月



「おたくさ号」平成25年9月

広告一覧

カラー電車

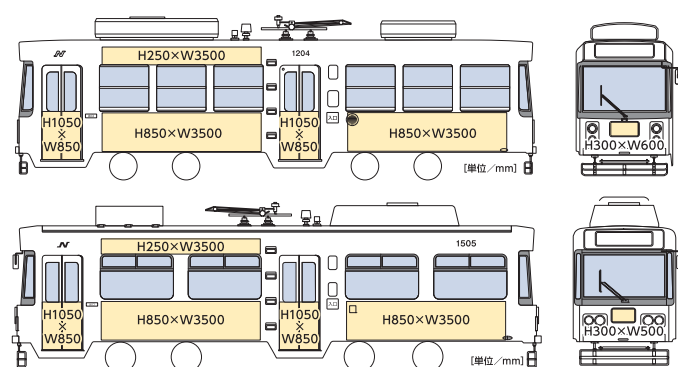


Aタイプ(360・370形)

広告料金(1ヶ月)
330,000(税別)

契約期間
3ヶ月～

※製作料別途

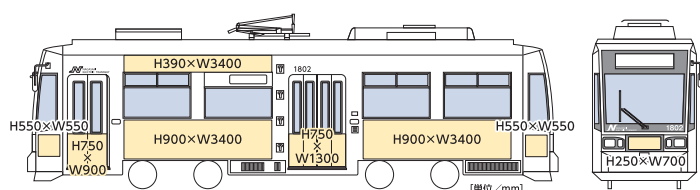


Bタイプ(1200・1300・1500・1700形)

広告料金(1ヶ月)
390,000(税別)

契約期間
3ヶ月～

※製作料別途

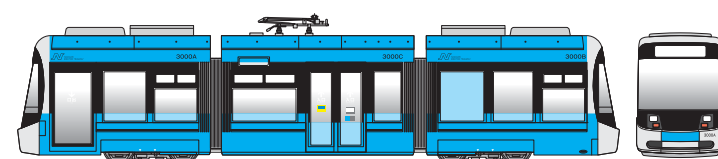


Cタイプ(1800形)

広告料金(1ヶ月)
450,000(税別)

契約期間
3ヶ月～

※製作料別途



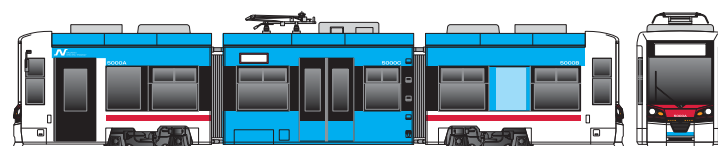
3000形

広告料金(1ヶ月)
450,000(税別)

契約期間
1ヶ月～

※製作料別途

広告スペース シースルー



5000形

広告料金(1ヶ月)
500,000(税別)

契約期間
1ヶ月～

※製作料別途

広告スペース シースルー

電車内広告



中吊りポスター(シングル)

数量	寸法	広告料金(5日間)	契約期間
1枠	364×515	70,000(税別)	5日間~

※製作料別途



中吊りポスター(ダブル)

数量	寸法	広告料金(5日間)	契約期間
1枠	364×1030	140,000(税別)	5日間~

※製作料別途



吊革スリーブ

種別	数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
A枠	1車両	100×36	3,000(税別)	1年
B枠	(36~44)	105×25		

※製作料別途



ステッカー

数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
10	200×425	13,000(税別)	1年

※製作料別途



Hポール

種別	数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
大枠	1	900×440	6,000(税別)	1ヶ月
小枠	1	440×440	3,600(税別)	

※製作料別途



窓柱プレート

数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
1車両	900×70	5,000(税別)	1年

※製作料別途



横額面

数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
1	300×2000	3,600(税別)	1ヶ月

※製作料別途



R面

数量	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
1	364×515	3,600(税別)	1ヶ月

※製作料別途



3000形車両ポスタージャック

数量(1車両)	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
R面21枠+運転後部席4枠	B3	90,000(税別)	1ヶ月

※製作料別途



5000形車両R面広告ジャック

数量(1車両)	寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
16枠[1車両内全R面]	B3	60,000(税別)	1ヶ月

※製作料別途

電車外広告



大型看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
700×5300	50,000 (税別)	1ヶ月

※製作料別途



大型特殊看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
図面参照	65,000 (税別)	1ヶ月

※製作料別途



中型看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
618×2500	20,000 (税別)	1ヶ月

※製作料別途



前面看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
550×450	6,600 (税別)	1ヶ月

※製作料別途

施設広告・他



電停行灯広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
右記 サイズ 参照	A級 9,000 (税別)	1年
	B級 8,000 (税別)	
	C級 7,000 (税別)	

※製作料別途



浜口町電停電照看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
920×1575	20,000 (税別)	1年



松山町電停建植看板広告

寸法	広告料金(1ヶ月)	契約期間
1345×2150	10,000 (税別)	1年

※製作料別途



ポスター広告

寸法	広告料金(7日間)	契約期間
B2まで	2,520 (税別)	1週間～

電車内区間放送広告

契約期間
1年

電停間で15秒程度のCMを放送致します。

放送回数	区 間	広告料金 (1ヶ月)	区 間	広告料金 (1ヶ月)
1日平均 273回	赤迫 → 住吉	10,000	住吉 → 赤迫	10,000
	住吉 → 千歳	13,000	昭和 → 住吉	——
	——	——	千歳 → 昭和	——
	千歳 → 若葉	15,000	若葉 → 千歳	15,000
	若葉 → 長大	15,000	長大 → 若葉	15,000
	長大 → 岩屋	13,000	岩屋 → 長大	13,000
	岩屋 → 浦庫	13,000	浦庫 → 岩屋	13,000
	浦庫 → 大橋	13,000	大橋 → 浦庫	13,000
	大橋 → 松山	15,000	松山 → 大橋	15,000
	松山 → 浜口	15,000	浜口 → 松山	15,000
	浜口 → 大病	——	大病 → 浜口	——
	大病 → 浦駅	22,000	浦駅 → 大病	22,000
	浦駅 → 茂里	20,000	茂里 → 浦駅	20,000
	茂里 → 銭座	20,000	銭座 → 茂里	20,000
	銭座 → 宝町	20,000	宝町 → 銭座	20,000
	宝町 → 八千	23,000	八千 → 宝町	23,000
	八千 → 長駅	24,000	長駅 → 八千	24,000

放送開始日	4月1日	7月1日	10月1日	1月1日
原稿締め切り日	3月1日	6月1日	9月1日	12月1日

● 録音料(初回のみ) …………… 一区間につき **30,000円(税別)**

- 効果音、BGMを付加する場合1件につき5,000円(税別)を上記録音料に加算させて頂きます。
- 年単位のご契約を承ります。● 各系統とも通過車両の80%で放送致します。
- 録音料は初回のみ30,000円(税別)申し受けます。ご契約期間中に内容を変更される場合は、2回目以降録音料を90,000円(税別)申し受けます。
- 1年未満で解約の場合も、放送消去料が必要となります。● 演出、効果などを含む制作料(完パケ制作料)は別途申し受けます。
- 演出、効果などを含む制作された完パケ(MD、CD)のお持込みも可能です。その際も、録音料は申し受けます。
- 生原稿読みの場合は、原則として女性アナウンスになり、演出、効果などのご希望には添えません。

※表示価格は全て税別です。

放送回数	区 間	広告料金 (1ヶ月)	区 間	広告料金 (1ヶ月)
1日平均 147回	長駅 → 五島	22,000	五島 → 長駅	22,000
	五島 → 大波	22,000	大波 → 五島	20,000
	大波 → 出島	20,000	出島 → 大波	19,000
	出島 → 築町	28,000	築町 → 出島	22,000
1日平均 273回	築町 → 西浜	——	西浜 → 築町	——
	西浜 → 観光	47,000	観光 → 西浜	36,000
	観光 → 思案	22,000	思案 → 観光	24,000
	思案 → 正覚	15,000	正覚 → 思案	15,000
1日平均 330回	蛭茶 → 新中	10,000	新中 → 蛭茶	10,000
	新中 → 新大	18,000	新大 → 新中	13,000
	新大 → 諏訪	29,000	諏訪 → 新大	33,000
	諏訪 → 公会	30,000	公会 → 諏訪	29,000
1日平均 198回	公会 → 賑橋	18,000	賑橋 → 公会	18,000
	賑橋 → 西浜	22,000	西浜 → 賑橋	18,000
1日平均 128回	公会 → 桜町	——	桜町 → 公会	——
	桜町 → 長駅	13,000	長駅 → 桜町	13,000
1日平均 100回	築町 → 市民	9,000	市民 → 築町	9,000
	市民 → 海岸	8,000	海岸 → 市民	8,000
	海岸 → 大天	8,000	大天 → 海岸	8,000
	大天 → 石橋	8,000	石橋 → 大天	8,000

電車内副称放送広告

契約期間
1年

次の電停名を案内した後、次の電停に接近したときに、電停案内も含めて約5秒間で、社名を放送致します。

電停名	広告料金 (1ヶ月)	電停名	広告料金 (1ヶ月)	電停名	広告料金 (1ヶ月)	電停名	広告料金 (1ヶ月)
赤 迫	10,000	大学病院前	20,000	築 町	22,000	新大工町	26,000
住 吉	20,000	浦上駅前	16,000	西浜町	30,000	新中川町	10,000
千歳町	20,000	茂里町※片側のみ	11,000	観光通	30,000	蛭茶屋	10,000
若葉町	16,000	銭座町	22,000	思案橋	30,000	桜 町	18,000
長崎大学前	15,000	宝 町	22,000	正覚寺下	10,000	市民病院前	15,000
岩屋橋	15,000	八千代町	25,000	西浜町(アーケード入口)	30,000	大浦海岸通	15,000
浦上車庫前	15,000	長崎駅前	30,000	賑 橋	22,000	大浦天主堂下	15,000
大 橋	18,000	五島町	22,000	公会堂前	22,000	石 橋	12,000
松山町	16,000	大波止	30,000	諏訪神社前	19,000		
浜口町	16,000	出 島	22,000				

※表示価格は全て税別です。

放送開始日	4月1日	7月1日	10月1日	1月1日
原稿締め切り日	3月1日	6月1日	9月1日	12月1日

● 録音料(初回のみ) …………… 一区間につき **30,000円(税別)**

- 年単位のご契約を承ります。
- 各系統とも通過車両の80%で放送致します。
- ご契約期間中に内容を変更される場合は、2回目以降録音料を90,000円(税別)申し受けます。
- 1年未満で解約の場合も、放送消去料が必要となります。
- 演出、効果などを含むことは出来ません。

施設広告 MAP



不動産

所有土地一覧（軌道用地・公共用道路は除く）



所在地 長崎市大橋町 4 - 5
取得日 昭和25年 1 月19日
面積 310.00㎡
用途 本社・西町営業所



所在地 長崎市中川 2 -14-26
取得日 昭和15年 2 月 3 日
面積 198.53㎡
用途 NEビル（蜚茶屋営業所・テナント・賃貸）



所在地 長崎市油屋町 5 - 2
取得日 昭和43年 3 月 9 日
面積 1710.24㎡
用途 広告事業部事務所・正覚寺下駐車場



所在地 長崎市中園町21-21
取得日 昭和35年 8 月 9 日
面積 54.43㎡
用途 赤迫配車室



所在地 長崎市大橋町 4 -11
取得日 昭和25年 1 月19日 面積 9676.11㎡
用途 浦上車庫・浦上車庫駐車場・西町変電所・遠方制御室・工務課詰所
電車事業部倉庫・塗装工場・社員駐車場



所在地 長崎市御船蔵町 3 - 3
取得日 平成23年12月28日 面積 82.84㎡
用途 御船蔵町変電所



所在地 長崎市賑町 7 - 6
取得日 平成 9 年 2 月 6 日 面積 80.44㎡
用途 賑町変電所



所在地 長崎市松山町 4
取得日 昭和63年 5 月 25日 面積 272.00㎡
用途 松山町変電所



所在地 長崎市天神町 1 - 32
取得日 昭和42年頃 面積 86.61㎡
用途 天神町変電所跡地



所在地 長崎市油屋町 5 - 1
取得日 平成24年 3 月 27日 面積 175.89㎡
用途 油屋町駐車場



所在地 長崎市八千代町 2
取得日 平成22年 4 月 16日 面積 304.23㎡
用途 八千代町駐車場



所在地 長崎市出島11-10
取得日 平成18年10月24日 面積 47.42㎡
用途 出島町駐車場



所在地 長崎市大橋町 4 - 44
取得日 平成 9 年 6 月 7 日 面積 218.33㎡
用途 大橋町駐車場



所在地 長崎市大橋町 4 - 39
 取得日 平成20年 9 月19日 面 積 234. 09㎡
 用 途 NE 大橋ビル (テナント・賃貸)



所在地 長崎市出島町11-12
 取得日 大正10年頃 面 積 153. 98㎡
 用 途 出島ビル (テナント・賃貸)



所在地 長崎市中川 2 - 15 - 8
 取得日 昭和10年 1 月16日 面 積 2536. 62㎡
 用 途 NE ビル 2 (蛍茶屋駐車場・テナント)



所在地 長崎市中川 2 - 1 - 19
 取得日 昭和63年 1 月 8 日 平成 2 年 5 月 9 日
 面 積 360. 82㎡ 用 途 土地賃貸



所在地 長崎市川口町13- 1
 取得日 昭和53年 4 月27日 面 積 4491. 44㎡
 用 途 長崎西洋館



所在地 西彼杵郡時津町日並郷3800
 取得日 昭和61年 4 月15日 面 積 4562. 50㎡
 用 途 土地賃貸



所在地 西彼杵郡時津町浜田郷756- 1
 取得日 昭和49年11月20日 平成14年 1 月24日
 面 積 1442. 88㎡ 用 途 土地賃貸



所在地 静岡県伊豆市八幡1137
 伊豆平パールタウン内
 取得日 昭和47年12月 7 日 面 積 3601. 00㎡

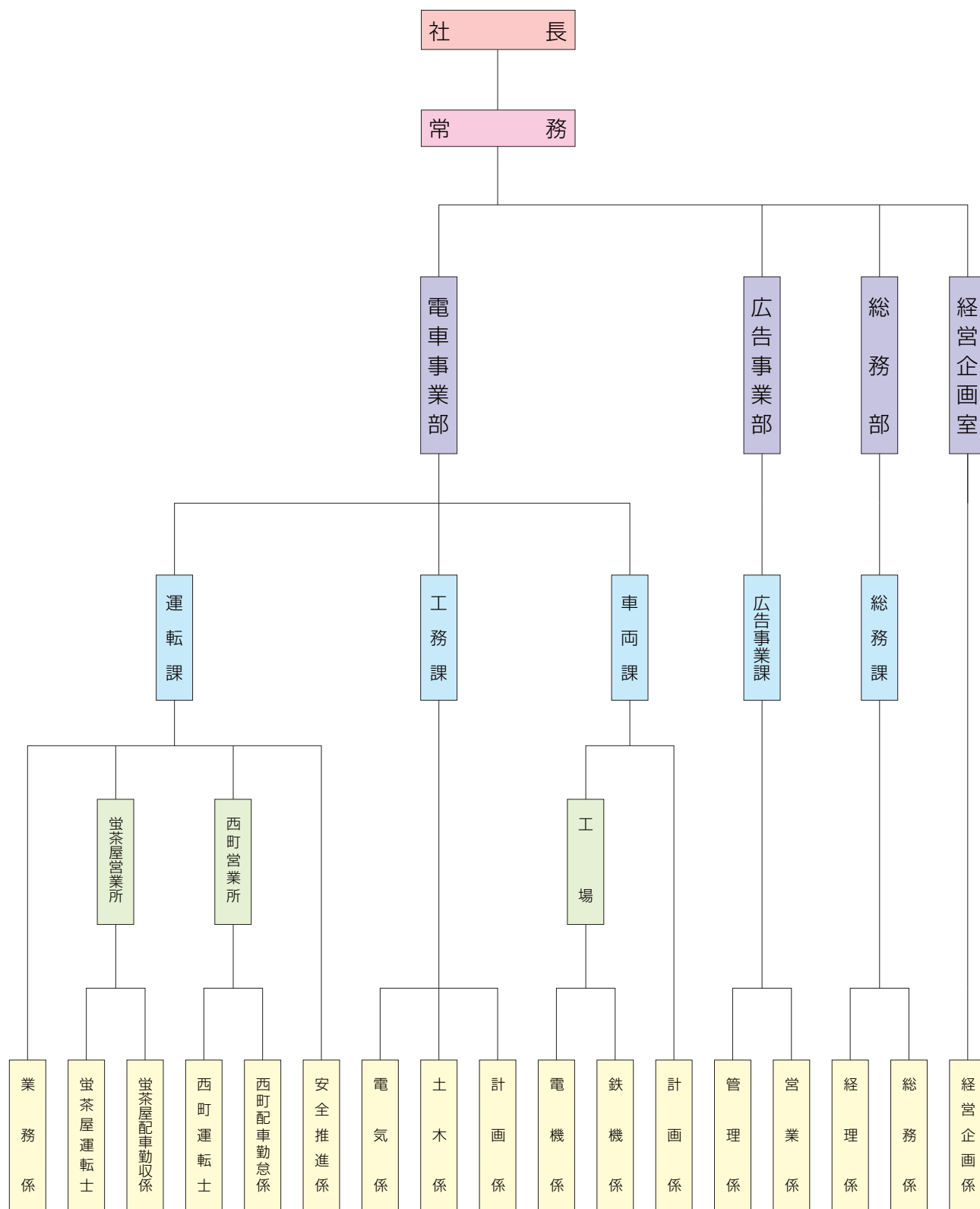
総務



組織

組織図

平成27年4月1日現在



組織変遷・従業員数

昭和58年度以降の組織の変遷

S58. 4. 1	企画調整課	総務部 総務課	兼営事業部 管理課 営業課	電車部 運転課	技術部 工務課
H10. 7. 16	経営企画調整室	同上	同上	同上	同上
H22. 11. 1	同上	同上	広告事業部 広告事業課	同上	同上
H22. 11. 25	同上	総務部 総務課	同上	同上	同上
H23. 8. 11	経営企画室	同上	同上	同上	同上
H27. 4. 1	同上	同上	同上	電車事業部 運転課 工務課 車両課	

部門別従業員数

	総務部・ 経営企画室	電車部	技術部	広告 事業部	臨時・ 嘱託	合計	出向
S 60 3. 31	7	138	57	13	27	242	
61 3. 31	9	142	55	13	15	234	
62 3. 31	10	147	57	14	10	238	
63 3. 31	10	150	55	14	10	239	
H 1 3. 31	10	149	54	13	9	235	
2 3. 31	13	152	54	13	9	241	
3 3. 31	9	146	55	13	10	233	
4 3. 31	10	138	53	13	10	224	3
5 3. 31	10	140	51	12	17	230	3
6 3. 31	9	142	50	15	17	233	3
7 3. 31	10	140	51	16	18	235	3
8 3. 31	10	137	51	14	16	228	3
9 3. 31	10	142	49	13	16	230	3
10 3. 31	9	146	49	13	16	233	4
11 3. 31	11	144	46	13	13	227	4
12 3. 31	11	150	46	13	17	237	3
13 3. 31	10	144	47	12	15	228	3
14 3. 31	11	145	46	10	12	224	3
15 3. 31	11	140	46	11	11	219	3
16 3. 31	10	143	48	12	11	224	4
17 3. 31	11	142	45	11	12	221	4
18 3. 31	13	142	49	11	10	225	4
19 3. 31	11	144	47	12	10	224	4
20 3. 31	11	143	48	11	14	227	4
21 3. 31	10	145	48	12	16	231	2
22 3. 31	14	149	51	13	15	242	4
23 3. 31	10	148	52	14	16	240	5
24 3. 31	10	142	51	10	15	228	6
25 3. 31	10	141	49	9	15	224	6
26 3. 31	8	138	47	9	17	219	4
27 3. 31	8	143	47	8	15	221	4

部門別構成

H27. 3. 31現在

部 門	人 員	平均年齢	平均勤続
土 木	10	45.04	24.02
電 気	8	44.05	23.10
車 両	23	40.09	19.11
運 転 士	119	41.08	16.05
運転係員	16	48.01	24.05
保守管理	6	41.01	17.05
運転管理	8	47.02	23.01
広 告	8	41.05	17.07
一 般 管 理	8	36.05	13.03
合 計	206	42.04	18.04

※再雇用・臨時嘱託除く

歴代役員

	大 3 ・ 8	10	4 ・ 4	10	5 ・ 4	10	6 ・ 4	10	7 ・ 4	10	8 ・ 4	10	9 ・ 4	10	10 ・ 4	10	11 ・ 4	10	12 ・ 4	10
会 長																				
社 長																				
専 務													益		田			種	三	郎
常 務																				
支配人																				
取 締 役													小曾根 喜一郎							
													古 賀 春 一							
													岸 本 信太郎							
													松 本 庫 治							
監 査 役																				
相談役																				

13 ・ 4	10	14 ・ 4	10	15 ・ 4	10	昭 2 ・ 4	10	3 ・ 4	10	4 ・ 4	10	5 ・ 4	10	6 ・ 4	10	7 ・ 4	10	8 ・ 4	10	9 ・ 4	10
--------------	----	--------------	----	--------------	----	------------------	----	-------------	----	-------------	----	-------------	----	-------------	----	-------------	----	-------------	----	-------------	----

山 田 鷹 治

山 田 鷹 治

上田一穂

脇 山 勘 助

桜 木 亮 三

渋谷 辰三郎

富永徳次郎

藤 野 光 輔

菊 池 武 和

脇 山 啓次郎

藤 瀬 宗一郎

永見徳太郎

	10 4	10	11 4	10	12 4	10	13 4	10	14 4	10	15 4	10	16 4	10	17 4	10	18 4	10	19 4	10
会 長																				
社 長									山 田 鷹 治											
専 務																				
常 務																				
支配人																				
取 締 役																				
監 査 役																				
相談役																				

20 4	10	21 4	10	22 4	10	23 4	10	24 4	10	25 4	10	26 4	10	27 4	10	28 4	10	29 4	11	30 4	11
---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----	---------	----

脇 山 勘 助

田中喜三郎

榎屋良一

田中喜三郎

桜木亮三

児玉治重

芦塚広根

出口勝治

渋谷辰三郎

中部悦良

本田芳紀

山田博吉

藤野光輔

大塚泰蔵

江川久太郎

榎屋良一

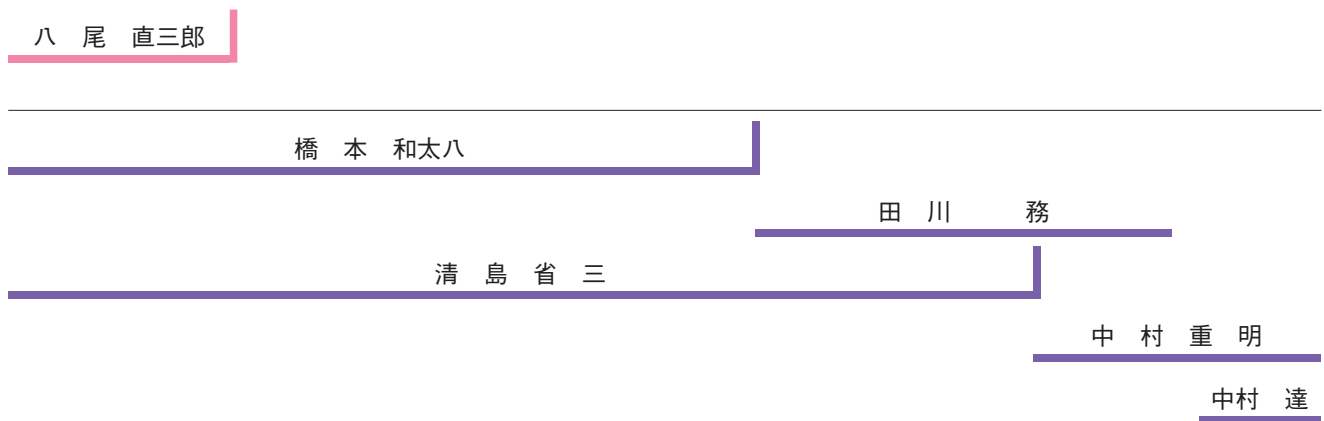
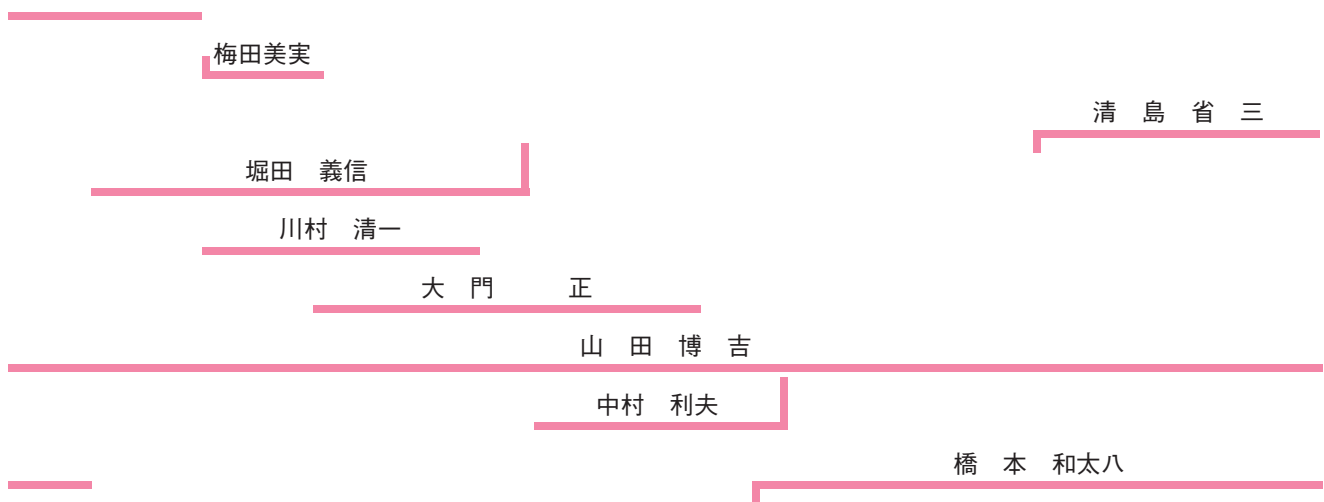
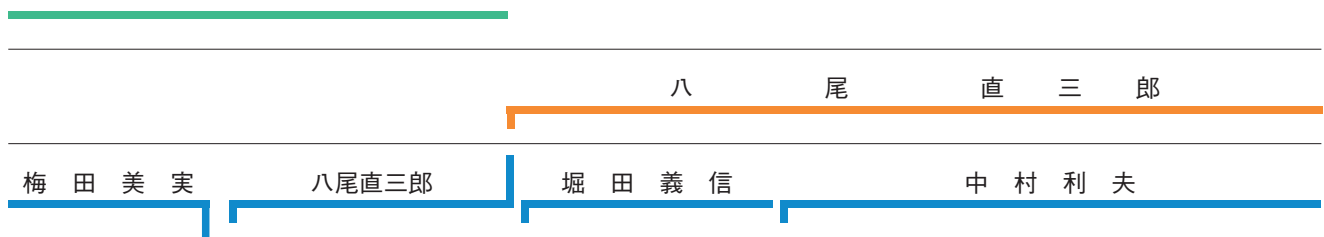
芦塚広根

松田一三

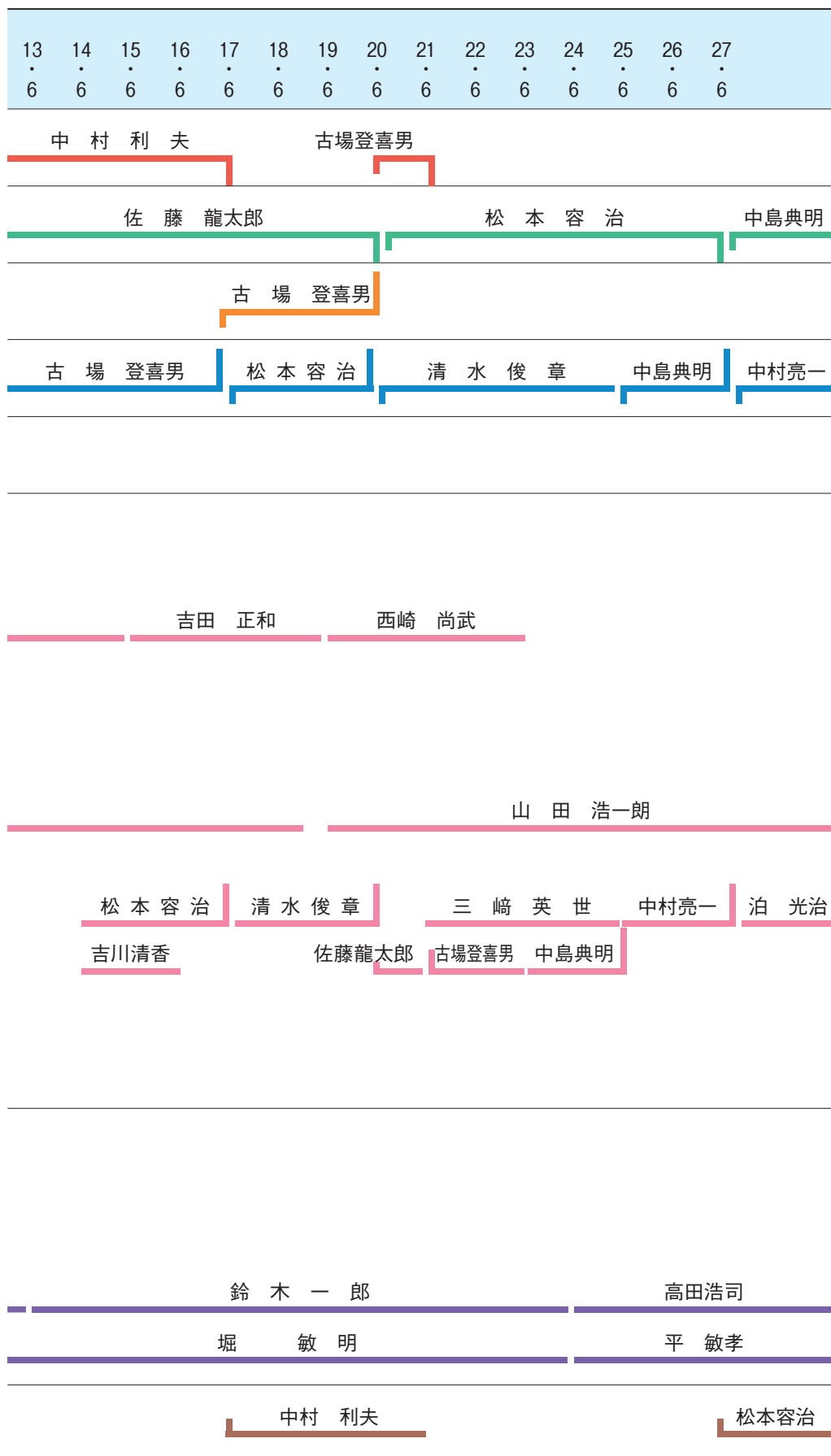
山田博吉

	31 ・ 5	11	32 ・ 5	11	33 ・ 5	11	34 ・ 5	11	35 ・ 5	11	36 ・ 5	11	37 ・ 5	11	38 ・ 5	11	39 ・ 5	11	40 ・ 5	11
会 長																				
社 長							脇		山		勘		助							
専 務																				
常 務							梶		屋		良		一							
支配人																				
取																			梶屋 良一	
							児 玉 治 重													
							出 口 勝 治													
締							中 部 悦 良													
											山 田 博 吉									
役											大 塚 泰 蔵									
監																				
査							芦 塚 広 根													
役							松 田 一 三													
相談役																				

41 ・ 5	11	42 ・ 5	11	43 ・ 5	11	44 ・ 5	11	45 ・ 5	11	46 ・ 5	11	47 ・ 5	11	48 ・ 5	11	49 ・ 5	11	50 ・ 5	51 ・ 6	52 ・ 6	53 ・ 6	54 ・ 6	55 ・ 6
--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------



	56 ・ 6	57 ・ 6	58 ・ 6	59 ・ 6	60 ・ 6	61 ・ 6	62 ・ 6	63 ・ 6	平 元 ・ 6	2 ・ 6	3 ・ 6	4 ・ 6	5 ・ 6	6 ・ 6	7 ・ 6	8 ・ 6	9 ・ 6	10 ・ 6	11 ・ 6	12 ・ 6
会 長																				
社 長																				
専 務																				
常 務																				
支配人																				
取																				
締																				
役																				
監																				
査																				
役																				
相談役																				



財務・労務

貸借対照表

単位（千円）

		133期 昭和60年度	134期 昭和61年度	135期 昭和62年度	136期 昭和63年度	137期 平成元年度	138期 平成2年度	139期 平成3年度
資産 の 部	流動資産	608,032	488,812	744,083	670,135	410,963	553,305	622,227
	固定資産	1,651,207	2,035,373	2,173,616	2,249,377	3,853,658	5,370,906	5,071,670
	軌道	1,192,640	1,136,262	1,205,129	1,248,102	1,209,921	1,320,945	1,252,458
	兼営事業	36,203	416,075	389,024	372,367	352,082	3,518,915	3,311,376
	関連	8,894	9,124	9,017	11,096	10,123	12,009	10,517
	投資他	413,471	473,912	570,445	617,811	2,281,532	519,038	497,319
	繰延資産	0	0	0	472	1,702	152,091	118,425
	資産計	2,259,239	2,524,185	2,917,699	2,919,984	4,266,322	6,076,303	5,812,322
負債 の 部	負債	1,483,033	1,645,365	1,876,939	1,684,553	2,850,777	4,538,064	4,267,655
	流動負債	1,015,252	948,934	1,262,415	1,166,093	1,034,931	1,231,050	1,215,320
	固定負債	467,781	696,431	614,524	518,460	1,815,846	3,307,014	3,052,335
	資本	776,206	878,820	1,040,760	1,235,431	1,415,546	1,538,239	1,544,668
	資本金	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000
	資本剰余金	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065
	利益剰余金	565,141	667,756	829,696	1,024,366	1,204,481	1,327,175	1,333,603
	負債計	2,259,239	2,524,185	2,917,699	2,919,984	4,266,322	6,076,303	5,812,322

損益計算書

		133期 昭和60年度	134期 昭和61年度	135期 昭和62年度	136期 昭和63年度	137期 平成元年度	138期 平成2年度	139期 平成3年度
収入 の 部	軌道事業	1,737,256	1,760,880	1,783,227	1,802,359	1,790,926	1,914,589	1,854,279
	兼営事業	348,094	323,389	354,088	385,949	391,095	575,950	698,940
	営業外収入	41,944	151,156	187,742	186,381	52,258	233,233	157,245
	特別利益	375,783	323,334	604,309	667,088	438,671	105,088	55,658
	計	2,503,077	2,558,760	2,929,367	3,041,777	2,672,951	2,828,860	2,766,122
支出 の 部	軌道事業	1,533,702	1,643,317	1,644,236	1,663,984	1,603,715	1,761,197	1,614,909
	兼営事業	285,851	271,785	333,980	348,565	312,106	521,415	762,187
	営業外損失	52,834	46,078	44,171	44,713	59,099	203,050	245,961
	特別損失	347,860	299,168	514,195	536,582	355,172	60,914	45,024
	法人税等	143,495	164,798	199,845	221,262	130,745	125,590	57,613
	計	2,363,742	2,425,145	2,736,427	2,815,106	2,460,836	2,672,166	2,725,694
	当期純利益	139,335	133,614	192,940	226,671	212,115	156,694	40,428

単位（千円）

140期 平成 4 年度	141期 平成 5 年度	142期 平成 6 年度	143期 平成 7 年度	144期 平成 8 年度	145期 平成 9 年度	146期 平成10年度	147期 平成11年度
613, 072	810, 350	925, 817	934, 787	813, 931	863, 064	1, 163, 748	1, 078, 798
4, 759, 630	4, 494, 534	4, 170, 110	3, 949, 365	3, 859, 576	3, 815, 561	3, 726, 488	3, 590, 113
1, 179, 914	1, 290, 563	1, 271, 038	1, 284, 136	1, 348, 462	1, 439, 615	1, 499, 585	1, 472, 789
3, 106, 789	2, 908, 568	2, 711, 833	2, 535, 198	2, 378, 287	2, 240, 313	2, 084, 634	1, 946, 696
10, 991	10, 100	8, 796	8, 418	7, 500	7, 282	7, 830	7, 587
461, 935	285, 302	178, 442	121, 614	125, 327	128, 352	134, 438	163, 040
6, 258	5, 631	5, 589	4, 543	3, 498	3, 108	5, 927	4, 394
5, 378, 960	5, 310, 514	5, 101, 515	4, 888, 696	4, 677, 006	4, 681, 733	4, 896, 164	4, 673, 305
3, 809, 655	3, 713, 651	3, 480, 634	3, 237, 490	2, 997, 032	2, 989, 928	3, 157, 895	2, 915, 641
1, 111, 668	1, 168, 110	1, 105, 656	1, 067, 884	1, 009, 203	1, 149, 960	1, 856, 361	1, 712, 170
2, 697, 986	2, 545, 541	2, 374, 978	2, 169, 606	1, 987, 829	1, 839, 967	1, 301, 534	1, 203, 471
1, 569, 305	1, 596, 864	1, 620, 881	1, 651, 205	1, 679, 974	1, 691, 805	1, 738, 269	1, 757, 664
210, 000	210, 000	210, 000	210, 000	210, 000	210, 000	210, 000	210, 000
1, 065	1, 065	1, 065	1, 065	1, 065	1, 065	1, 065	1, 065
1, 358, 241	1, 385, 799	1, 409, 817	1, 440, 141	1, 468, 909	1, 480, 741	1, 527, 205	1, 546, 600
5, 378, 960	5, 310, 514	5, 101, 515	4, 888, 696	4, 677, 006	4, 681, 733	4, 896, 164	4, 673, 305

140期 平成 4 年度	141期 平成 5 年度	142期 平成 6 年度	143期 平成 7 年度	144期 平成 8 年度	145期 平成 9 年度	146期 平成10年度	147期 平成11年度
1, 886, 120	1, 905, 647	1, 932, 446	1, 923, 456	1, 913, 306	1, 838, 250	1, 837, 618	1, 799, 889
659, 499	605, 259	638, 199	667, 389	694, 184	659, 443	618, 953	593, 793
128, 729	132, 234	61, 214	41, 379	48, 924	33, 166	143, 672	111, 081
890, 181	78, 691	71, 350	47, 955	64, 759	243, 537	680, 787	775, 176
3, 564, 528	2, 721, 831	2, 703, 208	2, 680, 179	2, 721, 172	2, 774, 396	3, 281, 030	3, 279, 939
1, 700, 040	1, 682, 294	1, 627, 947	1, 692, 874	1, 767, 106	1, 746, 348	1, 798, 881	1, 768, 294
614, 369	668, 861	680, 674	683, 356	669, 985	639, 701	588, 133	570, 866
222, 633	195, 315	208, 759	151, 094	108, 520	84, 189	124, 157	107, 920
888, 102	70, 975	60, 088	39, 349	55, 007	215, 392	619, 255	722, 104
80, 746	42, 827	67, 722	49, 182	58, 386	44, 135	71, 339	56, 760
3, 505, 890	2, 660, 273	2, 645, 190	2, 615, 855	2, 659, 004	2, 729, 765	3, 201, 766	3, 225, 944
58, 638	61, 558	58, 018	64, 324	62, 169	44, 631	79, 264	53, 995

貸借対照表

単位（千円）

		148期 平成12年度	149期 平成13年度	150期 平成14年度	151期 平成15年度	152期 平成16年度	153期 平成17年度	154期 平成18年度
資産 の 部	流動資産	841,566	574,437	781,900	581,705	573,520	583,963	585,491
	固定資産	3,578,046	3,529,034	3,605,899	3,526,228	3,487,393	3,415,576	3,282,224
	軌道	1,556,850	1,616,271	1,790,547	1,821,144	1,879,088	1,896,743	1,830,392
	兼営事業	1,825,657	1,716,286	1,615,638	1,516,548	1,421,995	1,344,319	1,265,426
	関連	9,388	11,946	10,445	8,927	14,417	13,735	12,137
	投資他	186,150	184,531	189,269	179,610	171,893	160,780	174,268
	繰延資産	4,066	2,724	2,253	2,417	1,925	1,562	1,373
	資産計	4,423,678	4,106,196	4,390,051	4,110,350	4,062,838	4,001,101	3,869,088
負債 の 部	負債	2,632,321	2,302,742	2,576,970	2,274,563	2,212,409	2,135,920	2,004,590
	流動負債	1,390,442	1,200,206	1,666,915	1,320,426	1,310,520	1,333,090	1,332,387
	固定負債	1,241,879	1,102,536	910,055	954,137	901,889	802,830	672,203
	資本	1,791,357	1,803,454	1,813,081	1,835,787	1,850,429	1,865,181	1,864,498
	資本金	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000
	資本剰余金	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065
	利益剰余金	1,580,292	1,592,389	1,602,017	1,624,723	1,639,364	1,654,117	1,653,433
	負債計	4,423,678	4,106,196	4,390,051	4,110,350	4,062,838	4,001,101	3,869,088

損益計算書

		148期 平成12年度	149期 平成13年度	150期 平成14年度	151期 平成15年度	152期 平成16年度	153期 平成17年度	154期 平成18年度
収入 の 部	軌道事業	1,897,797	1,859,814	1,817,236	1,811,278	1,762,004	1,763,525	1,743,506
	兼営事業	626,845	585,845	507,544	536,310	528,952	531,354	499,956
	営業外収入	107,631	80,727	96,964	91,227	60,756	61,255	30,142
	特別利益	424,187	277,186	557,681	417,221	334,613	348,410	138,625
	計	3,056,460	2,803,572	2,979,425	2,856,036	2,686,325	2,704,544	2,412,229
支出 の 部	軌道事業	1,832,556	1,854,616	1,787,336	1,754,933	1,707,617	1,769,161	1,682,667
	兼営事業	634,476	537,744	490,637	471,168	494,442	474,791	447,262
	営業外損失	71,909	63,367	99,883	100,814	68,971	40,599	58,388
	特別損失	396,984	258,771	494,916	398,468	315,869	330,480	128,778
	法人税等	52,842	42,377	62,426	72,147	48,984	39,561	56,817
	計	2,988,767	2,756,875	2,935,198	2,797,530	2,635,883	2,654,592	2,373,912
	当期純利益	67,693	46,697	44,227	58,506	50,442	49,952	38,317

単位（千円）

155期 平成19年度	156期 平成20年度	157期 平成21年度	158期 平成22年度	159期 平成23年度	160期 平成24年度	161期 平成25年度	162期 平成26年度
951,765	972,987	834,641	687,588	734,632	1,051,066	743,380	851,157
3,178,878	3,186,749	3,051,406	3,075,436	3,075,263	3,126,829	2,979,395	3,042,065
1,820,016	1,893,080	1,785,652	1,870,668	1,933,069	2,040,942	1,951,000	2,084,277
1,191,751	1,137,959	1,127,252	1,062,852	997,615	938,379	884,727	830,609
10,467	11,370	10,587	13,321	14,483	15,792	12,529	10,612
156,645	144,340	127,916	128,596	130,096	131,716	131,139	116,566
40,142	32,467	24,426	16,385	8,344	962	828	695
4,170,785	4,192,204	3,910,473	3,779,409	3,818,238	4,178,856	3,723,604	3,893,916
2,293,137	2,310,495	2,140,894	2,009,071	2,046,594	2,405,455	1,948,784	2,116,688
1,539,659	1,509,668	1,484,339	1,257,354	1,367,287	1,650,874	1,254,534	1,279,930
753,478	800,827	656,555	751,716	679,307	754,581	694,249	836,758
1,877,648	1,881,709	1,769,579	1,770,338	1,771,644	1,773,401	1,774,820	1,777,228
210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000
1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065
1,666,583	1,670,645	1,558,514	1,559,274	1,560,579	1,562,336	1,563,755	1,566,164
4,170,785	4,192,204	3,910,473	3,779,409	3,818,238	4,178,856	3,723,604	3,893,916

155期 平成19年度	156期 平成20年度	157期 平成21年度	158期 平成22年度	159期 平成23年度	160期 平成24年度	161期 平成25年度	162期 平成26年度
1,721,918	1,731,783	1,806,243	1,876,620	1,786,760	1,778,978	1,818,907	1,775,203
527,312	450,370	393,217	402,066	420,950	435,709	425,952	425,527
15,726	30,050	34,216	18,268	16,067	13,115	13,621	16,673
573,422	172,215	554,143	191,169	234,382	224,019	155,475	131,278
2,838,378	2,384,418	2,787,819	2,488,123	2,458,159	2,451,821	2,413,955	2,348,681
1,708,979	1,724,489	1,900,745	1,829,448	1,753,928	1,800,870	1,815,121	1,781,432
449,065	413,346	413,610	428,266	421,101	372,028	374,931	364,609
61,493	41,562	36,800	20,930	18,493	17,423	14,378	20,178
539,218	168,080	523,276	182,630	228,994	217,632	146,038	125,346
45,474	11,879	4,519	5,090	13,337	21,111	41,066	33,707
2,804,229	2,359,356	2,878,950	2,466,364	2,435,853	2,429,064	2,391,534	2,325,272
34,149	25,061	△91,130	21,759	22,306	22,757	22,419	23,408

ベースアップの変遷

ベースアップ			賞 与		摘 要
改 定 期	改 定 内 容		支 給 月 数		
昭和61年 4 月	平 均 初任給	12,500円 108,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
昭和62年 4 月	平 均 初任給	10,700円 111,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
昭和63年 4 月	平 均 初任給	12,100円 113,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	一時金10,000円
平成元年 4 月	平 均 初任給	12,800円 116,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 2 年 4 月	平 均 初任給	14,000円 118,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 3 年 4 月	平 均 初任給	13,000円 121,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	一時金10,000円
平成 4 年 4 月	平 均 初任給	11,500円 125,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 5 年 4 月	平 均 初任給	9,400円 128,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 6 年 4 月	平 均 初任給	8,000円 131,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 7 年 4 月	平 均 初任給	6,800円 133,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 8 年 4 月	平 均 初任給	6,900円 135,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成 9 年 4 月	平 均 初任給	6,800円 137,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成10年 4 月	平 均 初任給	5,800円 138,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成11年 4 月	平 均 初任給	4,000円 139,500円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	一時金20,000円
平成12年 4 月	平 均 初任給	3,300円 140,100円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成13年 4 月	平 均 初任給	2,950円 140,600円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成14年 4 月	平 均 初任給	2,300円 141,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成15年 4 月	平 均 初任給	1,700円 141,300円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成16年 4 月	平 均 初任給	1,500円 + α 141,700円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成17年 4 月	平 均 初任給	1,400円 + α 142,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成18年 4 月	平 均 初任給	1,650円 + α 142,200円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	家族手当増額
平成19年 4 月	平 均 初任給	2,000円 142,400円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成20年 4 月	平 均 初任給	2,300円 142,700円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成21年 4 月	平 均 初任給	1,800円 143,000円	夏 冬	2.15ヶ月 3.00ヶ月	
平成22年 4 月	平 均 初任給	1,600円 143,500円	夏 冬	2.15ヶ月 2.50ヶ月	
平成23年 4 月	平 均 初任給	800円 143,500円	夏 冬	2.00ヶ月 2.30ヶ月	
平成24年 4 月	平 均 初任給	900円 143,500円	夏 冬	2.00ヶ月 2.30ヶ月	
平成25年 4 月	平 均 初任給	1,000円 143,500円	夏 冬	2.00ヶ月 2.30ヶ月	
平成26年 4 月	平 均 初任給	1,200円 143,500円	夏 冬	2.00ヶ月 2.30ヶ月	
平成27年 4 月	平 均 初任給	1,400円 143,500円	夏 冬	2.00ヶ月 2.50ヶ月	

年表



記 事

S60

- 2. 4 168号車改修復元記念運行式
- 2. 14 蛍茶屋営業所ビル新築起工式
- 6. 1 電車乗務員の週休増加（9日→10日）
- 8. 7 NEビル（蛍茶屋営業所ビル）完成
- 8. 20 「ふりかえる20年のあゆみ」発行
- 10. 1 架線作業車更新
- 10. 30 電車開通70周年記念展開催（6日間） 於 浜屋百貨店

S61

- 2. 20 蛍茶屋ゴルフ練習場営業及び同地有料ガレージ業廃止、施設解体
- 3. 15 馬町～新大工町間の軌道移設工事完了
- 4. 4 中村達監査役 死去
- 12. 11 NEビルⅡ（蛍茶屋駐車場・テナントビル）完成及び蛍茶屋駐車場営業開始
- 12. 18 グローリア賞受賞

S62

- 9. 7 電車接近表示保安装置設置（浜口町）
- 9. 10 新造車「1301号・1302号」運行開始
- 12. 8 車両への暖房装置の設置完了

S63

- 3. 30 新中川町～蛍茶屋間の軌道移設及びセンターポール化工事完了
- 5. 21 新造車「1303号・1304号」運行開始
- 6. 10 下の川～浜口町間の線路移設工事完了
- 6. 28 車両への冷房装置の設置完了（601、701、1051号を除く）
- 8. 2 両替用包装機購入
- 9. 3 緊急連絡用にポケットベル採用
- 9. 17 松山町停留場に監視カメラ設置
- 10. 4 電車台数蓄積カウンター装置設置

H 1

- 3. 15 松山町変電所の移設工事完了（川口町変電所廃止）
- 3. 29 伊勢町～新中川町間の軌道移設及びセンターポール化工事完了
- 3. 30 軌道敷内全区间乗り入れ禁止の実施（国道34号線道路拡幅による。
S42. 9.21諏訪神社前～蛍茶屋970m乗り入れ可）
- 6. 8 新造車「1305号」運行開始
- 7. 29 車両の方向幕自動化完了（601、701、1051号を除く）
- 10. 31 中島川橋梁の架替工事完了

H 2

- 1. 19 天皇誕生日（12/23）を休日とする。
- 2. 10 センターポールが市都市景観賞受賞
- 3. 2 中村利夫 代表取締役社長に就任
- 6. 17 入江町停留場廃止（旅博開催によるバスターミナル前渋滞緩和のため）
- 7. 17 大浦海岸通り渡り線の敷設工事完了

内 外 事 情

S60

- 4. 1 電信電話公社と日本専売公社が民営化
- 4. 11 松が枝国際観光ふ頭完成
- 5. 4 駐長崎中華人民共和国総領事館が開設
- 8. 8 第1回世界平和連帯都市市長会議開催
- 8. 12 日航ジャンボ機墜落事故 死者520人
- 9. 19 メキシコ大地震発生 死者10000人以上

S61

- 4. 26 チェルノブイリ原発事故
- 5. 23 「長崎伝習所」開所
- 6. 13 スペースシャトル「チャレンジャー」、打上げ直後に爆発
- 11. 17 伊豆大島・三原山大噴火

S62

- 10. 19 ブラックマンデー。世界の株式市場大暴落
- 11. 29 大韓航空機爆破事件発生

S63

- 3. 13 青函トンネル開通
- 3. 17 東京ドーム完成
- 4. 10 瀬戸大橋開通
- 4. 27 中島川に水害復興記念モニュメント完成
- 10. 24 長崎コンベンションビューロー発足

H 1

- 1. 8 昭和天皇崩御 元号「平成」
- 3. 27 長崎市民平和憲章を制定
- 9. 25 新長崎漁港開港
- 11. 10 ベルリンの壁、崩壊
- 12. 2～3 ミソの冷戦終結

H 2

- 1. 18 本島等市長銃撃事件
- 5. 18 天皇・皇后両陛下ご来崎
- 8. 3 長崎「旅」博覧会開催
- 10. 3 ドイツ再統一（西ドイツに東ドイツが編入される形で統一）
- 11. 12 今上天皇即位の礼が皇居宮殿で挙行

- 8. 1 定年延長に伴う役職・資格の延長制度改定
- 8. 3 旅博シャトル電車運行開始（～11／4）
- 11. 30 長崎西洋館オープン（株）ナガデンクリエイト設立

H 3

- 1. 16 組織名称を変更（兼営事業部管理課デザイナー→兼営事業部管理課製作係）
- 2. 26 年休支給日数の改正 勤続満6年に達した者（現行の12日を13日に改正）実施時期は平成3年4月以降
- 5. 31 巡回車更新

H 4

- 3. 26 育児休業規則の追加
電車乗務員の週休増加（10日→12日）
- 3. 30 停留場案内板をステンレス製に取り替え
- 6. 22 第1回ビール電車運行開始（～8／31）
- 6. 30 浦上川橋梁の架替工事完了
- 6. 30 市民病院前～大浦海岸通間の軌道移設及びセンターポール化工事完了

H 5

- 7. 10 新造車「1501号・1502号」運行開始
- 9. 17 ユニック車更新
- 11. 1 組織名称を変更（技術部車両課電機、検車係→技術部車両課電機係、技術部車両課検車係）
（電車部運転課庶務乗車券係→電車部運転課乗車券係）
（電車部運転課計画係→電車部運転課庶務計画係）
- 12. 1 蛍茶屋駐車場時間駐車場24時間営業開始
- 12. 18 西町変電所更新

H 6

- 4. 1 組織名称を変更（兼営事業部営業課営業係→兼営事業部営業課第一係、兼営事業部営業課第二係）
- 4. 1 電車部運転課赤迫配車係を新設
- 4. 4 公休出勤の取扱 乗務員の法定外休日は土曜日と公休日が重複した日とする。（平成6年4月1日実施）
- 7. 7 新造車「1503号」運行開始

H 7

- 2. 9 銭座町停留場の改修工事完了（銭座町歩道橋撤去）
- 3. 10 架線作業車更新
- 3. 16 八千代町停留場の改修工事完了（H7.2.7 八千代町歩道橋撤去）
- 5. 26 一昼夜勤務の週平均労働時間変更（48時間→44時間）
1日当たりの労働時間変更（8時間→7時間）
- 6. 22 新造車「1504号、1505号」運行開始
- 11. 1 新のりつき券発行
- 11. 10 電車開通80周年記念展開催（7日間） 於 長崎西洋館
- 12. 19 705号寄贈式（市立南幼稚園）

- 11. 17 雲仙・普賢岳、200年ぶり大噴火

H 3

- 1. 17 湾岸戦争、勃発
- 5. 21 長崎水道創設100周年
- 6. 3 雲仙・普賢岳で火砕流発生

H 4

- 4. 1 長崎市障害福祉センター・長崎原子爆弾被爆者健康管理センター（愛称・もりまちハートセンター）オープン
- 9. 12 スペースシャトル「エンデバー」で日本人初飛行
- 10. 1 女性センター「アマランス」オープン

H 5

- 4. 28 野口彌太郎記念美術館開館
- 5. 15 プロサッカーリーグ、「Jリーグ」開幕
- 8. 8 第3回世界平和連帯都市市長会議開催
- 8. 26 首都高速のレインボーブリッジ開通

H 6

- 3. 19 消防緊急通信指令システムがスタート
- 5. 10 運転免許証「ゴールドカード」新設
- 6. 27 松本サリン事件

H 7

- 1. 17 阪神・淡路大震災
- 3. 20 地下鉄サリン事件
- 6. 12 国連軍縮長崎会議を開催
- 8. 9 被爆50周年原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を開催
- 10. 2 社団法人 長崎国際観光コンベンション協会を設立

H 8

- 2. 16 ランタンフェスティバル電飾花電車運行開始（～2／18）
- 3. 19 岩屋橋交差点の交通信号変更
- 5. 30 週40時間制に伴う労働時間改正
- 6. 27 新造車「1506号」運行開始

H 9

- 2. 24 緊急車（キャラバン）購入
- 3. 4 石橋停留場の電車接近表示器の運用開始
- 6. 23 新造車「1507号」運行開始
- 7. 1 本社勤務者の勤務時間変更（8：30～17：00→8：30～17：10）
- 8. 1 兼営事業部（現広告事業部）事務所の増築

H10

- 5. 22 嶋田哲生取締役 死去
- 6. 29 昭和町～若葉町間の歩道カット工事に伴う支障物件移設工事完了（電柱）
- 6. 29 佐藤龍太郎 代表取締役社長に就任
- 7. 1 昭和町通停留場の改修工事完了（H10. 5. 15 住吉町歩道橋撤去）
- 7. 16 組織名称を変更
（企画調整課→経営企画調整室）
（企画調整係→経営企画調整係）
技術部車両課庶務係廃止
- 9. 5 作業基準の更新

H11

- 1. 21 西浜町に選別補助灯設置
- 2. 19 車両への音声合成装置設置完了
- 3. 25 宝町～西坂町間のセンターポール化工事完了
- 3. 30 平成10年度 路面電車停留場の支援事業完了（長崎駅前・出島・大浦天主堂下）
- 4. 1 育児休業規則の改定及び介護休業規則の新設
- 4. 8 新造車「1702号」運行開始
- 4. 9 新造車「1701号」運行開始
- 9. 17 上田一了監査役 死去
- 9. 24 車内名札掲示の変更
- 9. 28 長崎大学前停留場の改修工事完了（H11. 8. 27 長崎大学前歩道橋撤去）
- 11. 17 大学病院前停留場の改修工事完了（H11. 8. 27 浜口町歩道橋撤去）

H12

- 1. 13 臨港道路工事に伴う常磐町交差点改修工事完了
- 2. 28 賑橋（下線）停留場の改修工事完了
- 3. 4 長崎大学前に監視カメラ設置
- 3. 24 浜市電車通り商店街アーケード新築工事に伴う支障物件移設工事完了（架線の共架）
- 3. 24 蛍茶屋電線類の地中化工事完了
- 3. 25 岩川町～宝町間のセンターポール化工事完了
- 3. 28 大浦天主堂下停留場、長崎バスと併設供用開始

H 8

- 3. 20 狂牛病騒動
- 4. 1 「長崎原爆資料館」開館
- 9. 1 総合運動公園に「かきどまり庭球場」オープン
- 10. 5 市民総合プールオープン

H 9

- 5. 24 神戸市で「酒鬼薔薇」事件
- 7. 26 県営野球場（ビッグNスタジアム）がオープン
- 11. 3 市営ラグビー・サッカー場、松山町駐車場が完成
- 11. 16 サッカー日本代表ワールドカップ出場決定

H10

- 2. 7 長野冬季オリンピック開催（～2／22）
- 4. 5 明石海峡大橋の供用開始
- 7. 4 日本初火星探査機「のぞみ」打ち上げ成功
- 10. 1 長崎ブリックホールが開館
- 11. 24 国連軍縮長崎会議を開催

H11

- 1. 1 ユーロ始動（欧州11カ国に単一通貨導入 1ユーロ＝132円80銭）
- 1. 25 厚生省が「バイアグラ」を承認
- 3. 1 グラバー園がリニューアルオープン
- 7. 23 全日空ジャンボ機がハイジャックされる
- 10. 30 子ども議会を戦後初めて開催

H12

- 1. 1 祝日法改正「ハッピーマンデー」施行
- 3. 28 「年金制度改革関連法」成立
- 4. 1 介護保険スタート
- 4. 5 「永井隆記念館」オープン
- 4. 20 日蘭交流400周年記念式典に、日蘭両皇太子出席
- 11. 17 世界NGO会議「核兵器廃絶―地球市民集会ナガサキ」開催
- 12. 1 BSデジタル放送開始

- 3. 29 平成11年度 路面電車停留場の支援事業完了（松山・大橋・思案橋・
築町・西浜町・大浦天主堂下・観光通）
- 4. 7 電車接近表示保安装置設置（賑橋）
- 7. 3 大橋（下線）停留場の延長
- 7. 14 浜口町停留場の拡幅工事完了
- 7. 14 巡回車更新
- 8. 12 全停留場の嵩上げ工事完了
- 10. 11 松山町停留場の監視カメラ更新
- 11. 16 公式ホームページ（PC サイト）を開設
- 11. 26 第1回路面電車まつり開催
- 12. 2 岩屋橋停留場の改修工事完了（H12. 9. 7 岩屋橋歩道橋撤去）
- 12. 7 新造車「1801号・1802号」運行開始

H13

- 6. 26 大浦天主堂下停留場に自動案内音声放送装置設置
- 7. 1 浦上車庫前の確認十字灯運用開始
- 7. 3 浜口町停留場に監視カメラ設置
- 8. 1 1053号搬出（→仙台市）
- 9. 1 長崎駅前停留場に自動案内音声放送装置設置
- 12. 27 浜口町～岩川町間のセンターポール化工事完了

H14

- 1. 16 組織名称を変更
（兼営事業部営業課第一係、→兼営事業部営業課営業係）
（兼営事業部営業課第二係→兼営事業部営業課不動産設備管理）
- 1. 31 新造車「1803号」運行開始
- 3. 22 年次有給休暇の積立制度新設（20日迄）
- 3. 30 車両のステップ改造完了
- 4. 1 大橋町月極駐車場の営業開始
- 4. 15 携帯サイト（ナビネット）開設
- 8. 27 松山町停留場に自動案内音声放送装置設置
- 9. 12 公会堂前停留場4・5号系統側の横断歩道による供用開始（H14. 7. 3 魚の町歩道橋撤去）
- 9. 25 浦上川橋梁に風速計設置
- 12. 1 組織名称を変更
（電車部運転課庶務計画係→電車部運転課庶務乗車券係）
（電車部運転課教育係→電車部運転課教育計画係）

H15

- 2. 6 正覚寺下時間駐車場の24時間営業開始
- 3. 8 長崎署前歩道カット工事に伴う支障物件移設工事完了（電柱、転轍機など）
- 3. 8 公会堂前停留場3号系統側の改修工事完了（H14. 7. 3 魚の町歩道橋撤去）
- 3. 23 賑町変電所完成（出島変電所廃止）
- 3. 26 平成14年度 路面電車停留場の支援事業完了（石橋・公会堂前4・5号系統側・正覚寺下・公会堂前3号系統側・桜町）
- 7. 15 築町停留場に監視カメラ設置
- 9. 27 築町・観光通停留場のスロープ勾配変更工事完了

H13

- 2. 9 ハワイ沖で米海軍原子量潜水艦が
実習船えひめ丸に衝突
- 4. 22 「長崎ペンギン水族館」オープン
- 8. 9 被爆56周年平和祈念式典をブリッ
クホールで初開催
- 9. 11 米国、同時多発テロ勃発

H14

- 1. 23 国宝大浦天主堂の大規模補修完了
- 5. 30 日韓共同開催ワールドカップ開催
- 7. 27 石橋斜行エレベーター供用開始
- 8. 5 「住基ネット」第1次稼働
- 10. 1 ダイヤモンド・プリンセス火災発
生
- 11. 27 全国中核市サミット開催

H15

- 2. 1 米国、スペースシャトル「コロン
ビア」が空中分解
- 4. 1 日本郵政公社が営業開始
- 7. 5 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念
館開館
- 7. 28 全国高校総合体育大会（長崎ゆめ
総体）開会
- 12. 1 地上デジタル放送開始

- 10. 21 車両の戸閉保安装置の追加工事完了
- 11. 16 電車部運転課西町公休代務、電車部運転課蛸茶屋公休代務新設
- 12. 12 西坂町～江戸町間のセンターポール化工事完了

H16

- 2. 12 電車接近表示保安装置設置（下の川）
- 3. 1 超低床車両「3001号」運行開始
- 3. 8 就業規則第48条、労働協約第45条の改定及び賃金・賞与の金融機関振込
- 3. 23 出島バイパス建設に伴う支障物件移設工事完了（電柱、電線など）
- 5. 31 電車接近表示保安装置設置（入江町）
- 5. 31 西浜町（4・5号系統下線）停留場のスロープ新設工事完了
- 5. 31 八千代町・長崎大学前・若葉町・千歳町・赤迫停留場のスロープ勾配変更工事完了
- 6. 3 厚生貸付規程の新設
- 8. 20 長崎駅前停留場に監視カメラ設置
- 9. 1 技術部車両課車体系の廃止
- 10. 1 超低床電車3000形グッドデザイン賞受賞
- 12. 1 第1回カラー電車コンテスト開催
- 12. 7 浦上駅前停留場の横断歩道新設及び供用開始

H17

- 1. 1 トヨタレンタリースと中川2丁目社有地の土地賃貸借契約を結ぶ
- 1. 22 超低床車両「3002号」運行開始
- 2. 28 江戸町一部区間のセンターポール化工事完了
- 4. 1 精神障害者割引開始
- 6. 1 大橋停留場、長崎バスと併設供用開始
- 7. 14 市民病院前・大浦海岸通・昭和町通停留場のスロープ勾配変更工事完了
- 9. 17 電車部運転課蛸茶屋予備係の新設
- 9. 25 蛸茶屋営業所の定期券発売開始
- 11. 16 電車開通90周年記念展開催（5日間）於 長崎西洋館
- 11. 19 超低床車両3000形ローレル賞受賞式

H18

- 1. 1 全停留場禁煙化開始
- 1. 17 岩屋川橋梁交差点の速度制限（20km/h以下）開始
- 1. 27 超低床車両「3003号」運行開始
- 2. 10 超低床車両3000形長崎市都市景観賞奨励賞受賞
- 2. 23 入江町に選別補助灯設置
- 3. 6 就業規則第26条の改定、再雇用規程の新設
- 3. 28 出島町2号線センターポール化工事完了
- 3. 30 平成17年度 路面電車停留場の支援事業完了（西浜町・賑橋）
- 4. 1 時津駐車場の営業開始
- 4. 1 電車部運転課西町の予備係新設
- 4. 26 松山町（上線）・思案橋停留場のスロープ勾配変更工事完了
- 7. 10 異常時連絡のため、乗務員の携帯電話所持を許可
- 8. 30 全停留場ゴミ箱撤去
- 10. 15 浜口町停留場箇所の芝生軌道化工事完了

H16

- 1. 12 山口県の養鶏場で鳥インフルエンザが発生
- 3. 27 ながさき出島道路開通、長崎水辺の森公園オープン
- 9. 18 日本球界で初のストライキ決行
- 10. 23 「新潟県中越地震」発生

H17

- 4. 2 ローマ法王ヨハネパウロ2世死去
- 4. 25 JR西日本福知山脱線事故（死者107名、負傷者460名）
- 7. 23 「長崎県美術館」オープン
- 11. 3 「長崎歴史文化博物館」オープン
- 12. 11 「女神大橋」開通

H18

- 4. 1 「長崎さるく博'06」開幕
- 4. 1 「道の駅夕陽が丘そとめ」オープン
- 7. 13 原油価格高騰（一時1バレル＝78ドル）

- 10. 20 第8回全国路面電車サミット長崎大会（3日間）
- 12. 22 平成18年度 路面電車停留場の支援事業完了（住吉）

H19

- 1. 17 山田吉太郎取締役 死去
- 1. 22 点呼用アルコールチェッカー設置及び運用開始
- 2. 1 技術部の循環勤務時間変更
- 2. 1 本社勤務者の勤務時間変更（8：30～17：10→8：30～17：20）
- 3. 15 住吉～岩屋橋間の剛質構造変更軌道整備工事完了
- 4. 11 五島町中央分離帯に花壇設置
- 5. 15 賑橋（下線）停留場のスロープ勾配変更工事完了
- 5. 24 公会堂前分岐での脱線事故のため3号系統上線運休
- 6. 29 出島停留場の延長及びスロープ勾配変更工事完了
- 7. 1 技術部循環勤務の休憩時間変更
- 7. 19 公会堂前分岐3号系統上線運転再開
- 9. 1 賞罰規程に一部追加（セクシュアルハラスメント）
- 12. 17 個人用アルコールチェッカー貸与及び運用開始

H20

- 3. 5 浦上車庫前0号線信号保安設備改造
- 3. 20 長崎スマートカード（回数券）運用開始
- 3. 22 浜口町停留場のスロープ部手摺設置
- 3. 24 西浜町三方分岐箇所軌道信号「確認」標識設置
- 4. 9 前照灯点灯での運行開始（終日）
- 4. 15 営業係員へ携帯電話貸与
- 5. 29 電車接近表示保安装置設置（大浦天主堂下停留場・下大浦橋）
- 6. 26 松本容治 代表取締役社長に就任
- 7. 18 正覚寺下停留場に監視カメラ設置
- 7. 23 電車接近表示保安装置設置（出島交差点）
- 9. 1 NE 大橋ビル賃貸開始
- 9. 1 永年勤続表彰規程の一部変更
- 9. 24 資材置き場移転（時津8工区→長星開発（株）資材置場）
- 10. 4 公会堂前停留場に監視カメラ設置
- 11. 8 諏訪神社前付近の電線類地中化工事完了
- 12. 2 出来大工町の定期券発売所閉鎖
- 12. 16 全車両へのスマートカードシステム設置完了
- 12. 25 電車接近表示保安装置設置（大橋）

H21

- 1. 10 長崎スマートカード（定期券）運用開始
- 2. 1 個人表彰の一部変更
- 3. 15 西浜町三方分岐箇所の軌道嵩上工事完了
- 4. 25 通勤手当の支給開始
- 5. 19 就業規則「個人表彰」、労働協約附則「賞罰規程」の変更
- 6. 30 電車乗務員の基準時間の変更（6時間51分→7時間）
- 9. 8 5号系統ダイヤ改正、3号系統の最終を22：36に変更
- 10. 1 運賃改定（普通運賃 100円→120円）
- 10. 14 ダイヤ編成システム導入
- 11. 20 西浜町操作室の移設、運用開始

H19

- 2. 24 中央橋歩道橋撤去
- 4. 17 伊藤市長銃撃され、翌日死亡
- 5. 15 国民投票法が成立
- 5. 28 伊藤前市長市民葬

H20

- 1. 5 長崎市立図書館開館
- 2. 19 「イージス艦あたご」衝突事故
- 4. 26 「いのちの碑」除幕式
- 8. 8 北京オリンピック開催
- 9. 15 米国、証券会社リーマン・ブラザーズ破綻
- 10. 1 みらい長崎ココウォークグランドオープン

H21

- 4. 1 長崎市制施行120周年記念式典
- 5. 21 裁判員裁判がスタート
- 8. 1 長崎市亀山社中記念館オープン

11. 26 大浦天主堂下停留場箇所の芝生軌道化工事完了

H22

- 2. 1 就業規則第17, 26, 28, 53条の変更及び退職金規程の変更
- 3. 15 西浜町4・5号系統側停留場の改修工事完了
- 3. 22 新中川町停留場の横断歩道設置・電停スロープ設置
- 3. 29 電車接近表示保安装置設置（松山）
- 3. 30 架線作業車更新
- 4. 1 八千代町月極駐車場営業開始
- 4. 16 被服規程、勤務規程の変更
- 5. 7 電車資料館を西洋館に移転
- 11. 1 組織名称を変更
（総務部総務課庶務・株式、労務・人事、給与・厚生→総務部総務課総務係）
（総務部経理課会計係、総務部経理課出納係→総務部経理課経理係）
（兼営事業部→広告事業部）
（兼営事業部管理課、兼営事業部営業課→広告事業部広告事業課）
（庶務係、製作係、ガレージ管理→管理係）
（営業係、不動産・設備管理→営業係）
（西町勤収係、西町配車係、西町予備係、西町公休代務、赤迫配車係→西町配車勤怠係）
（蛍茶屋勤収係、蛍茶屋配車係、蛍茶屋予備係、蛍茶屋公休代務→蛍茶屋配車勤怠係）
技術部工務課庶務係廃止
- 11. 25 総務部人事労務担当の副主査以上、経営企画調整室の主査以上等非組合員の範囲変更
組織名称を変更
（総務部経理課廃止→総務課経理係）

H23

- 1. 10 蛍茶屋駐車場の二輪車駐車場の営業開始
- 2. 1 運行状況配信サービス「ナビネットメール」開始
- 2. 15 超低床車両「5001号」運行開始
- 3. 17 大浦海岸通停留場の回転灯運用開始
- 3. 31 出入庫番線表示灯の更新（浦上車庫）
- 6. 2 大浦海岸通停留場に監視カメラ設置
- 7. 14 浦上車庫内ポンプ室跡地の舗装工事完了
- 8. 11 組織名称を変更
（経営企画調整室→経営企画室）
（西町配車勤収係→西町配車勤怠係）
（庶務乗車券係→業務係）
（教育計画係→指導係）
- 10. 1 災害補償の変更
- 10. 7 超低床車両の運行情報等提供サービス「ドコネ」開始
- 10. 28 Wキャブ車更新
- 11. 15 若葉町（上線）停留場の延長工事完了
- 12. 1 オリジナルグッズの通信販売開始
- 12. 5 賃金の締切及び支払日の変更（締切日10日→5日・支給日25日→20日）

H22

- 3. 26 長崎港松が枝国際観光船ふ頭内に国際観光船ターミナルが完成
- 4. 20 宮崎県で口蹄疫の発生
- 6. 13 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
- 10. 13 チリ鉱山落盤事故。69日ぶり作業員33人全員を救助

H23

- 3. 11 東日本大震災と東電福島第1原発事故
- 3. 27 「伊王島大橋」開通
- 8. 9 平和祈念式典に米国の駐日首席公使が同国代表として出席
- 10. 21 円が戦後最高値を更新

H24

- 2. 14 超低床車両「5002号」運行開始
- 2. 22 車両の乗降口スロープ部フラット化完了
- 2. 26 松ヶ枝自動閉そく信号機の移設
- 2. 27 浦上車庫前の分倍周軌道回路装置の更新
- 2. 27 蛸茶屋の軌道信号機移設
- 4. 6 組織名称を変更（電車部運転課指導係→電車部運転課安全推進係）
- 5. 3 蛸茶屋車庫内の車上荒らし被害
- 5. 7 正覚寺下月極駐車場の夜間専用駐車契約開始
- 6. 8 浦上車庫構内本線側フェンス設置
- 6. 13 蛸茶屋車庫内2号線側フェンス設置
- 12. 14 ドライブレコーダー設置

H25

- 3. 18 浦上車庫前の信号継電連動装置更新
- 3. 19 社内電話線光ケーブル化工事完了
- 3. 20 思案橋～正覚寺下間の剛質構造変更軌道整備工事完了
- 3. 21 松山町変電所更新
- 3. 27 就業規則 定年、再雇用の変更（年金受給年齢に応じた再雇用）
- 3. 31 時津駐車場営業終了
- 4. 1 ダイヤ改正（全系統）
- 4. 1 出島月極駐車場の営業開始
- 4. 1 モバイル一日乗車券の発売開始
- 6. 1 WiFi サービス開始
- 7. 16 公式フェイスブック開設
- 10. 1 正覚寺下第二駐車場の営業開始
- 11. 1 技術部車両課検車係廃止
- 11. 30 電車接近表示保安装置設置（長崎新地バスターミナル前）
- 12. 11 茂里町停留場に監視カメラ設置

H26

- 1. 29 年休積立制度の変更
- 3. 1 運行管理システム運用開始
- 3. 30 2001号車「さよなら」運行
- 7. 30 巡回車更新
- 8. 2 創立100周年
- 10. 7 シェルター式停留場ホーム灯 LED 化完了

H27

- 1. 18 御船蔵町変電所完成（天神町変電所廃止）
- 3. 28 赤迫停留場延長及び軌道信号機移設工事完了
- 6. 25 中島典明 代表取締役社長に就任
- 8. 12 電車開通100周年記念展開催（6日間）於 浜屋百貨店
- 11. 16 電車開通100周年

H24

- 2. 29 東京スカイツリー完成
- 4. 1 矢上大橋有料道路が無料化
- 5. 5 原子力発電所全54基が停止
- 8. 18 九州新幹線諫早～長崎間起工2022年開通予定
- 10. 5 「夜景サミット2012」が長崎市で開催され、長崎市と香港、モナコの3都市が「世界新三大夜景」に選ばれる

H25

- 2. 9 長崎グループホーム火災発生
- 3. 2 第3回 WBC 開催（～3／19）
- 9. 7 2020年東京オリンピック開催決定
- 10. 15 JR九州「ななつ星」を運行開始

H26

- 2. 24 新長崎市民病院開院
- 3. 14 県営バスが運賃改定を発表
- 4. 1 消費税増税（8％に変更）
- 4. 17 韓国で旅客船沈没事故
- 9. 27 御嶽山噴火
- 10. 11 天皇、皇后両陛下ご来県
- 10. 12 長崎がんばらば国体・がんばらば大会開幕

H27

- 1. 28 スカイマーク民事再生法の適用申請
- 2. 15 ウクライナ停戦発効
- 2. 25 長崎大学病院で新生児院内感染（多剤耐性菌）
- 3. 6 国体の経済効果（678億円）の発表
- 3. 13 東洋ゴム工業改ざん発覚

役員

中島 典明
中村 亮一
泊 光治
松本 容治
山田 浩一朗
高田 浩司
平 敏孝

総務部・経営企画室

松坂 勲
向 賢治
三浦 尚
中村 亮太
白倉 一
山下 哲平
江添 紗予子

長崎西洋館

永川 吉弘
山川 好浩
五島 有希
志水 清司

広告事業部

阿部 幸二
武本 誠司
古賀 博文
徳測 公彦
濱田 賢俊
井手 道一
山口 泰生
荒木 千須子

電車事業部工務課

福島 孝一郎
田口 豊
清川 佑輔

宮崎 晃一
川内 忠
森岡 昇
江川 浩二
畠添 輝行
稲田 成一
川本 雅敏
寺田 謙一郎
西村 智弘
内田 丈
奥田 真哉
平川 和徳
山下 祐樹
中村 裕太
山口 剛聖
梅原 直樹
端本 将大
安田 賢治
桑原 政行

電車事業部車両課

平川 忠文
中村 太一
山口 真和

秋元 好則
永田 毅
小川 義昭
内山 秀之
佐々野 丈晴
山岡 勝文
原口 昭博
池村 孝幸
長山 靖志
真崎 光幸
井上 学
山内 正治
山中 正徳
長岡 剛
有藤 悦朗
平田 尚勢
江藤 慎一郎

猿渡 晃
入江 孟
竹尾 勇一
畑 和也
渡部 利則
木内 敦

電車事業部運転課

山佐 易之
嶋田 敬三
永山 茂雄
末次 浩
榎田 雄二
富永 剛
永野 宏幸

本多 徹
八並 大地
森 由香
焼本 俊二
牟田 竜治
井手 千好
久保田 弘城
山崎 寿
薄井 照弘
山本 茂

相川 浩二
中村 実男
松尾 琢浩
泊 健次
金尾 幸司
増田 聡
加藤 雅

宮上 和憲
一瀬 晴彦
井口 孝
平川 実之
山田 勝美
中村 信孝
深堀 和久
橋口 照行
三浦 勝彦

瀬崎 保雄
早田 正則
月元 浩
宮脇 昭男
石司 啓揮
高原 義次
尾谷 剛
春田 和男
野村 秀弥
久松 孝次
橋本 邦夫
松尾 康徳
高瀬 武雄
井手口 邦広
小島 丈二
山田 孝
井手 豊

梅田 辰也
池田 幸則
鶴崎 和久
早稲田 泰則
深堀 薫
古賀 龍雄
友廣 王憲
川崎 政伸
本田 博
松田 陽介
渡辺 由紀雄
木戸 則之
園田 伸二
永田 秀則
林田 時春
山浦 和明
柴原 久芳

長野 哲也
深江 重徳
中尾 茂
立石 義宗
西岡 一浩
山田 清
松崎 正義
田川 豊
岩永 仁
鈴田 勝仁
宮本 忠義
築山 貴博
岡 正明
原田 伸彦
西山 裕智
河原 正範
東 昌幸

中尾 幸紀
山下 聡一郎
山田 貴久
瀬戸 健太郎
大山 信昭
出口 俊介
金城 雄大
川原 強
田邊 聡
森崎 圭司
光永 純一
前田 賢治
峯 康祐
吉村 建一
板倉 裕知
深堀 秀一郎
後田 学
畑地 英造

大島 毅朗
春崎 雄大
西田 慎治
永井 晃貴
多比良 史弘
渡久地 毅広
松竹 真一
五島 佳明
横山 雄一
松山 健
奥田 誠
田中 亮
平野 勇一郎
高橋 祐介
濱田 剛
寺側 大輔
菊田 佳祐
菊池 裕太

山本 将樹
吉本 隆司
森本 裕太
山口 哲一
村中 祐介
平山 辰史
古田 翼
袖山 哲平
池田 優哉
廣瀬 陽介
松本 雄飛
愛甲 学人
市丸 敦之
松本 尚史
木村 僚真
友廣 王人
横山 和孝
道下 康平

再雇用者

山口 年行
山下 久雄
堀田 士郎
藤本 睦児
栗原 真茂
柴崎 司

臨時嘱託

小瀬良 五月
井上 登代美
下川 敦子
富井 幸子
森山 彩香
山田 幸子
家永 政継
和田 敏弘
一ノ瀬 茂

(平成27年 9 月30日現在)



参考図書

- ・『長崎「電車」が走る街 今昔 海と坂の街定点対比』（2005年7月） 田栗優一
- ・『日本の路面電車ハンドブック』（2011年10月） 日本路面電車同好会
- ・『長崎の路面電車』（1987年12月） 崎戸秀樹

長崎電気軌道100年史

平成28年2月15日印刷

平成28年3月15日発行

編纂発行人 長崎市大橋町4番5号
長崎電気軌道株式会社

印刷所 長崎県西彼杵郡長与町高田郷96番1号
八光印刷工業株式会社
